

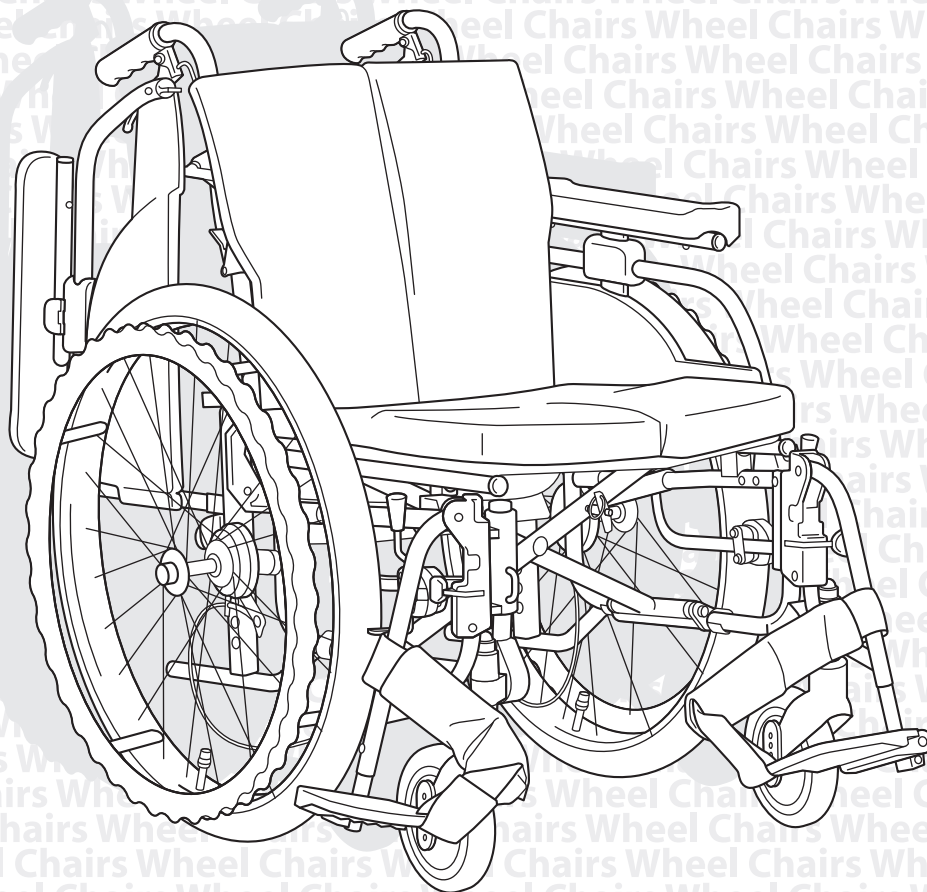
マツナガのモジュール車いす

REM-1000

取扱説明書

保存用

保証書付



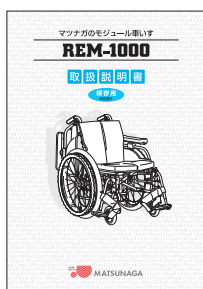
MATSUNAGA

このたびは、(株)松永製作所製品の車いすをお買い上げいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意
事項や正しい使い方が説明してあります。ご使用になる前に、必ずお読みください。
また、保証書が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。

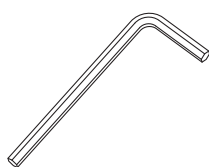
車いすが、使用者の身体に合わない状態で乗らないでください。健康をそこなう恐れがあります。
そのような場合は、購入されたお店または、かかりつけの病院にご相談ください。

- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

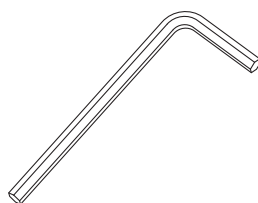
付属品



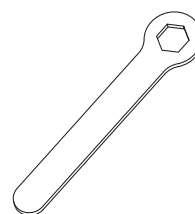
取扱説明書



六角レンチ
(対辺4mm)



六角レンチ
(対辺5mm)

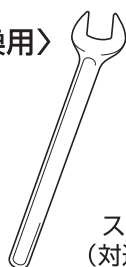


スパナ

オプション工具

車いすの寸法を変更する場合には、下記の工具が必要になります。別途、ご用意ください。

〈大車輪交換用〉



スパナ 2本
(対辺19mm)

〈キャスターブロック交換用〉



スパナ 1本
(対辺19mm)



薄口スパナ(※) 1本
(対辺19mm)

〈キャスター交換用〉



スパナ 2本
(対辺10mm)

〈ワイヤー脱着用〉



スパナ 1本
(対辺10mm)



スパナ 1本
(対辺8mm)

※厚みが5mm以下のスパナです。

目次

安全にお使いになるためのご注意	2
各部の名称	4
機能説明	5
車いすの広げ方・折りたたみ方	6
車いすの広げ方	6
車いすの折りたたみ方	7
安全にお使いになるための使用方法	8
ブレーキの使用方法	8
フット・レッグサポート(新タイプ)スイングアウト	9
アジャスタブルフットサポート(前後&角度調整)	10
フットサポートの高さ調整	11
アームサポート(新タイプ)跳ね上げ&着脱	12
押し手高さの変更	14
車いすの使用方法	15
乗り方・降り方	15
動かし方	16
介助の仕方	17
外出時の注意	18
ご使用の前に	20
車いすのオプション	21
安全ベルト・その他	21
車いすの寸法変更	22
座高の変更	22
キャスターブロック位置の変更	23
キャスター角度調整	23
アジャスタブルフォーク穴位置の変更	24
車輪の変更	24
ワイヤーの張り調整	25
自走式⇔介助式の変更	26
ブレーキの調整	26
座幅の変更	27
フレーム奥行きの変更	29
背もたれの変更	31
角度変更	31
高さ変更	31
もしこんなトラブルが発生したときは	32
車いすのお手入れの方法	32
保管場所・保証・アフターサービス	33
保証書	33

安全にお使いになるためのご注意



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。

警告

(禁止)



しては
いけない

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。
- フットサポートの上に乗って、乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
車いすがバランスを崩し、転倒事故の原因となります。
- 故障、異常のあるときは、使用しないでください。
事故、転倒などによるケガの原因となります。
- 改造しないでください。
改造によって車いすの部品の破損、脱落などで安全性が低下して事故、転倒の原因となります。
- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
転倒事故の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
車いすが動き、転倒事故の原因となります。
- バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ているのを確認してください。
転倒事故の原因となります。
- 坂道の登り下りは、介助者の方に支えていただいで行ってください。
スピードが出たり、バランスが不安定になり、転倒、転落事故の原因となります。
- 道路の通行は、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください。)
道路交通法規を守らないと、交通事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。
車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。

⚠ 注意

(禁止)



しては
いけない

- バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
車いすが不安定になり、転倒事故の原因となります。
- 車いすを払げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。
- アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。
ケガ、転倒・転落事故の原因となり大変危険です。
- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
摩擦で、手にケガをする恐れがあります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
手や指を挟んで、ケガをする原因となります。
- タイヤを持って車いすを操作しないでください。
ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。
- バックしながら、急停止しないでください。
転倒事故の原因となります。
- 火気の近くに置かないでください。
タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。
- バックサポートパイプのみで、キャスト（前輪）を上げないでください。
バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒して事故の原因となります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
使用者が車いすから転落して事故の原因となります。
- 使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。
パイプが外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。
バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。

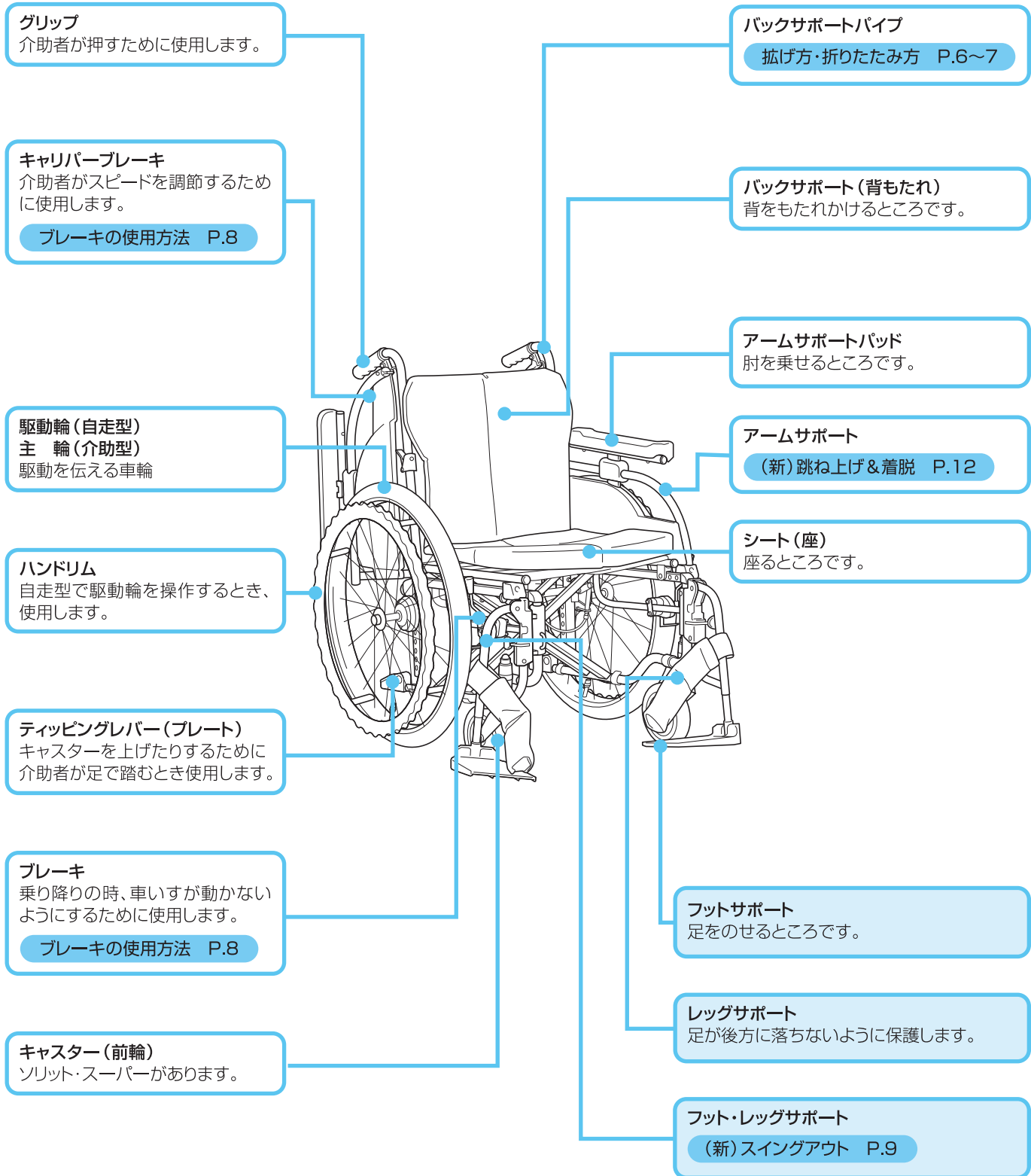
(強制)



必ずして
いただく

- 介助者の方は、キャリパーブレーキレバーを両側同時にかけてください。
バランスを崩し、転倒事故の原因となります。
- 車いすを払げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認してから座ってください。
パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因となります。
- スイングアウトをもどしたときは、ロックが確実にされているか確認してください。
足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。
- アームサポート（新タイプ）跳ね上げをもどしたときは、ロックレバーのピンが完全にロックされていることを確認してください。
転落事故の原因となります。
- 安全ベルト装着機種は、必ず安全ベルトを締めてください。
衝撃などで転落し事故の原因となります。
- 安全ベルトのマジック式は、糸くずや汚れを取り除いてください。
粘着力が弱くなり衝撃を受けた時外れ、転落事故の原因となります。
- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
フットサポートが脱落し事故の原因となります。
- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒事故の原因となります。
- 車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。
車いすが動いたりして、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- 坂道を下るとき介助者の方は、車いすを後ろ向きにし、ゆっくり確認しながら走行してください。
前向きで下ると、乗っている人がすり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因となります。
このような環境条件でご使用される場合は、ワイドキャスト（オプション仕様）をご使用ください。

各部の名称

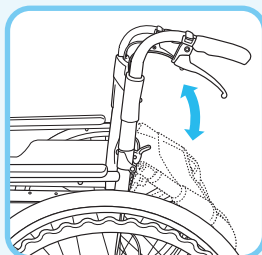


機能説明

〈バックサポート〉

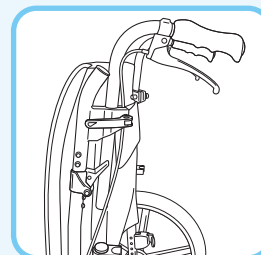
折りたたみ

背もたれが折りたたみで、コンパクトになります。自動車等への積み込みが容易に行えます。



押し手高さ調整

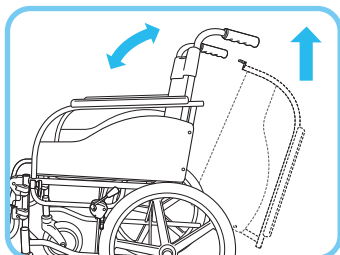
介助者の体格に合わせて、押し手の高さ調整が工具なしで行えます。



〈アームサポート〉

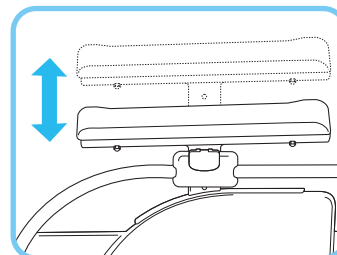
(新) 跳ね上げ&着脱

簡単なワンタッチ操作で肘掛けの跳ね上げができます。さらに肘掛けを取り外すこともできます。ベッド等への移乗時に大変便利です。介助軽減にも役立ちます。



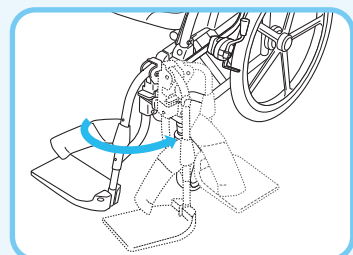
高さ調整

肘掛けの高さを簡単な操作で調整することができます。使用者の体格に合わせて、クッションの有無にも対応できます。



〈フット・レッグサポート〉

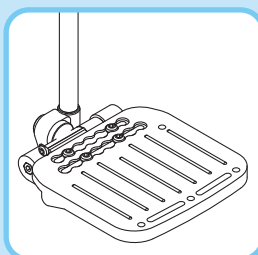
(新) スイングアウト



フット・レッグサポート部が開閉でき、着脱可能です。ベッド、便器等への接近が容易です。片手・片足操作にも適しています。新タイプは樹脂製になり、操作もより簡単です。

〈フットサポート〉

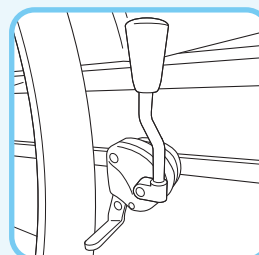
アジャスタブルフットサポート



フットサポートの位置を前後調整できます。また角度も変更できます。

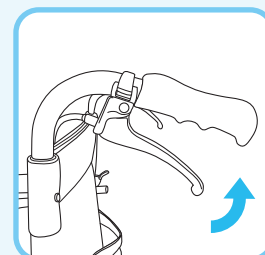
〈ブレーキ〉

ミニ (跳ね上げ専用タイプ)



車いすが動かないようにします。肘掛けを跳ね上げての移乗の際に、レバーがじゃまにならない形状にしています。

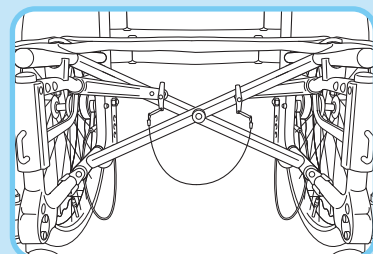
キャリパー



介助者が走行中(下り坂)の減速・停止に便利です。

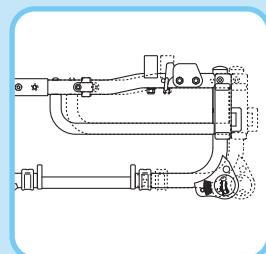
〈モジュール機能〉

座巾変更 (座シート交換)



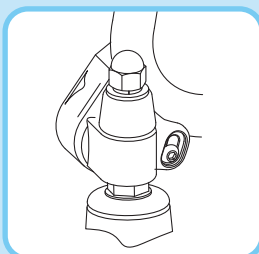
使用者の体格に合わせて、座巾を工具を使用せずに変えることができます。

フレーム奥行き変更

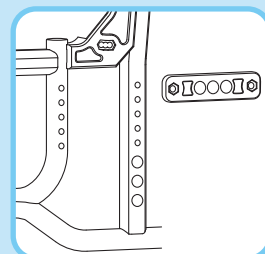


使用者の体格に合わせて、車いすフレームの奥行きを調整できます。

座高変更

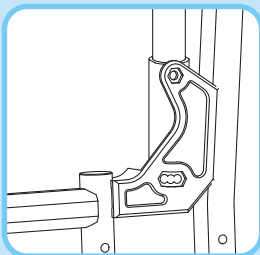


使用者の体格に合わせて、前座高、後座高を変えることができます。自走⇄介助の変更も可能です。さらに、キャストフォークの角度変更が出来ます。



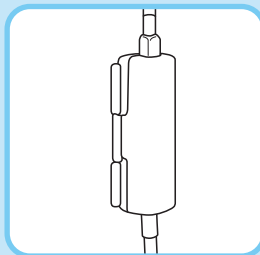
背もたれ角度&高さ調整

使用者の体格に合わせて、背もたれの高さを調整できます。また角度が変更できるので、より快適な姿勢ができます。



ワイヤー着脱

車輪の(サイズ)変更の際にキャリパーブレーキのワイヤーを取り換えることができます。

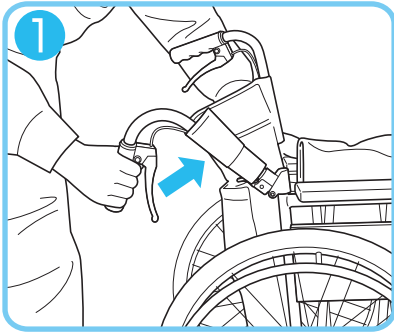


車いすの拡げ方・折りたたみ方

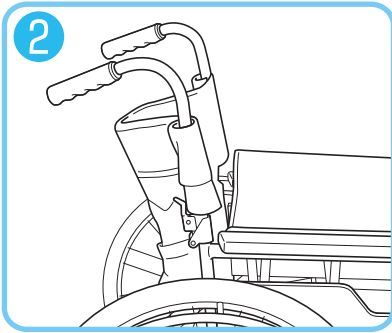
車いすの拡げ方

*バックサポートの折りたたみをおこす時は、車いすを折りたたんだ状態で行ってください。
(拡げた状態で行うと、背シートにバックサポートパイプが引っ張られ、ロック出来なくなります。)

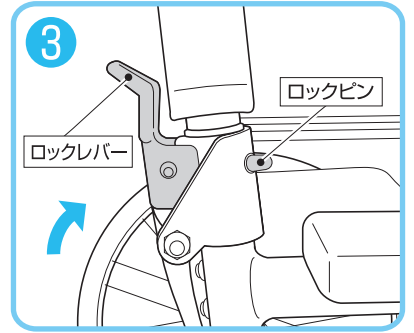
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げる。



② バックサポートを両側起こす。



③ レバーを矢印方向に起こし、ロックピンが出ていることを確認する。



警告

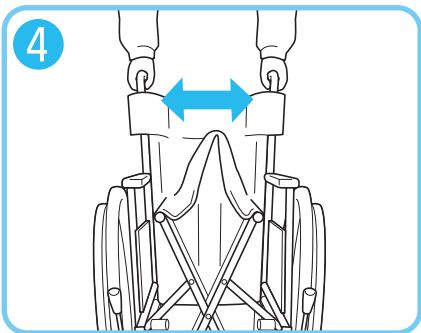
●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ているのを確認してください。(転倒事故の原因となります。)

していただく

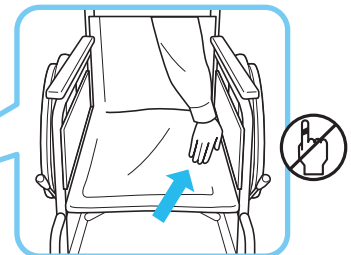
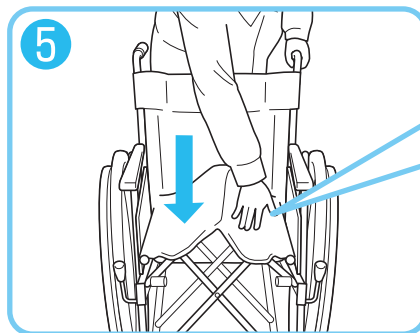
●バックサポートに重いものを引っ掛けしないでください。
(車いすが不安定になり、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

④ 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げます。



⑤ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、シートが拡がります。



※手・指に注意



注意

●車いすを拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。)

してはいけない



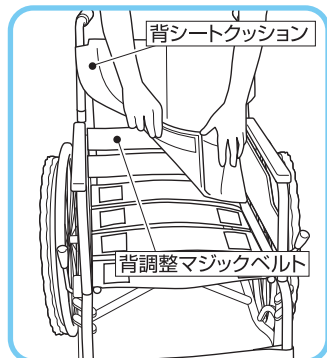
注意

●車いすを拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認してから座ってください。
(パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。)

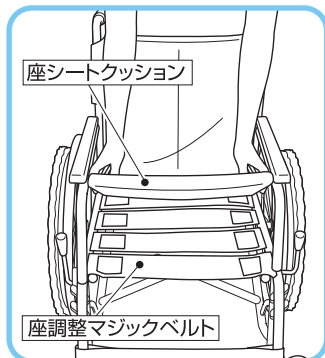
していただく

●クッションを装着していない場合は、車いすを拡げた後にクッションの装着をして下さい。

① 背シートクッションを背調整マジックベルトに固定する。



② 座シートクッションを、座調整マジックベルトに固定する。



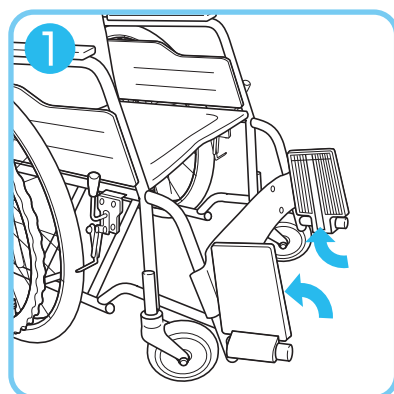
⚠ 注意

- 背シート・座シートクッションのマジックテープは確実に固定して下さい。
(固定していないと、シートがズれて、転倒事故の原因となります。)
- マジックテープに付いた、糸くずや汚れを取り除いて下さい。
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転倒事故の原因となります。)

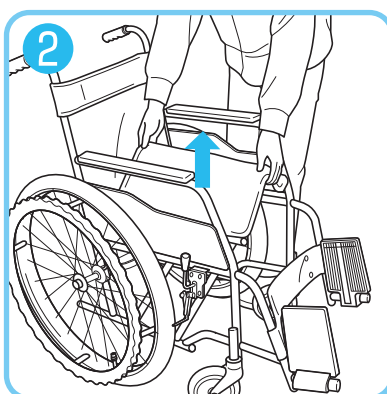
していただく

車いすの折りたたみ方

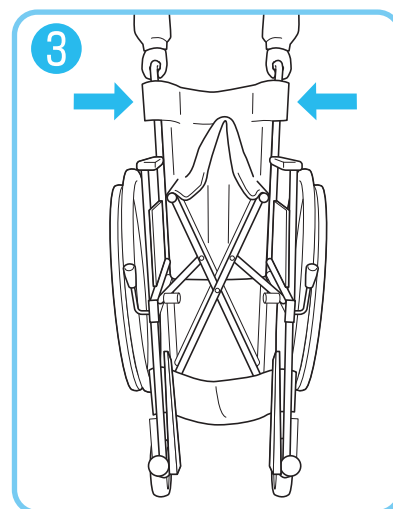
① フットサポートを矢印方向に回転させて上げる。



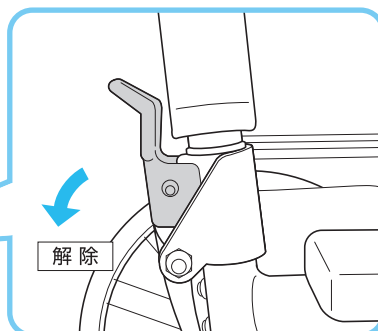
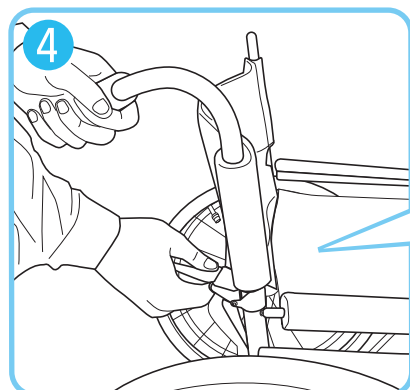
② シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。



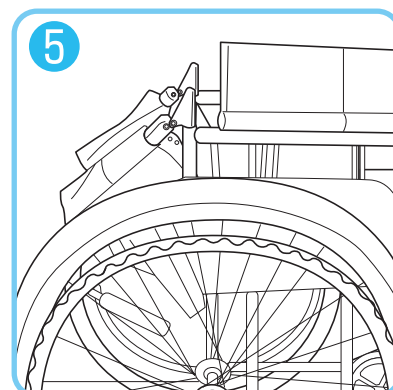
③ 左右のグリップを持ち、内側にたたむ。



④ グリップを片手で持ち、ロックレバーを矢印方向に倒し、バックサポートを倒す。



⑤ バックサポートを両側後方に倒す。

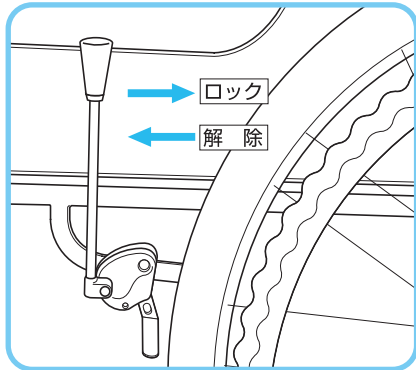


安全にお使いになるための使用方法

ブレーキの使用方法

- ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に引くと解除します。

ミニタックル



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。(P.20 で使用の前に参照)
(ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。)

してはいけない

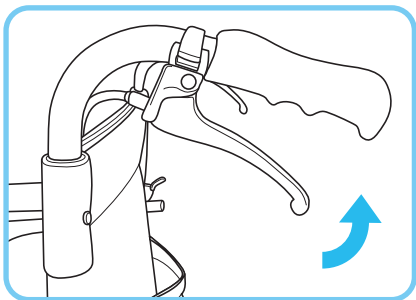
警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒事故の原因となります。)

していただく

キャリパーブレーキ

- レバーを握るとブレーキがかかります。
- レバーを離すと解除します。



注意

- 急ブレーキをかけないでください。
(車いすに乗っている方が前方へ転倒する恐れがあります。)

してはいけない

介助者の方が走行中や下り坂での減速及び停止にご使用ください。

注意

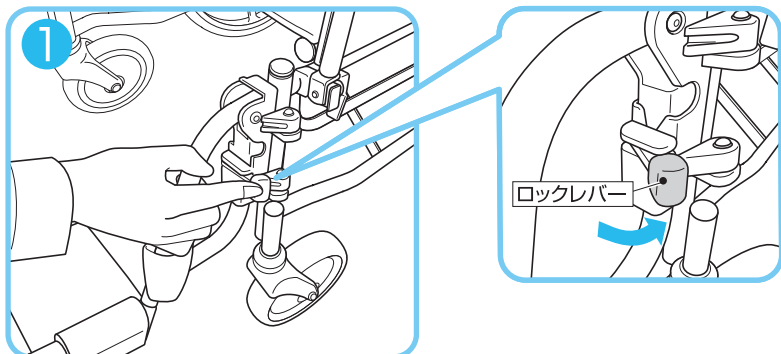
- 介助者の方は、キャリパーブレーキレバーを両側同時にかけてください。
(バランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

していただく

フット・レッグサポート(新タイプ) スイングアウト

- フット・レッグサポートをスイングアウト(外開き)したり、取り外すことによりトイレ・ベッドの乗り移りがしやすくなります。また片足こぎ操作する時には、取り外すことにより足元が広がります。

- ①ロックレバーを押し、ロックを解除します。

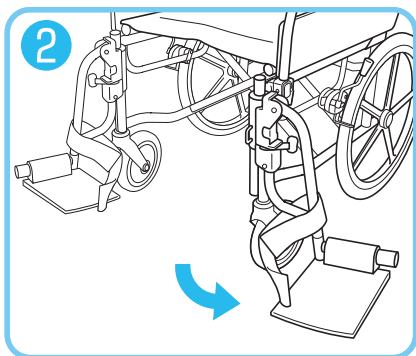


⚠ 注意

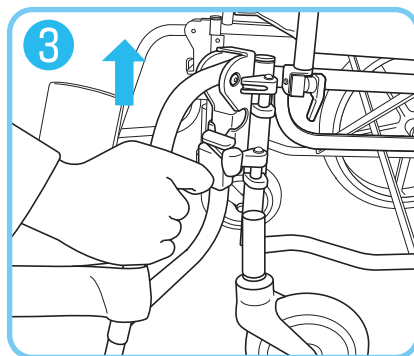
- スイングアウトをもどしたときは、ロックが確実にされているか確認してください。(足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。)

していただく

- ②フット・レッグサポートを開くように外側に回転させます。



- ③フット・レッグサポートを取り外すときは、外側に回転した状態から上に持ち上げてください。



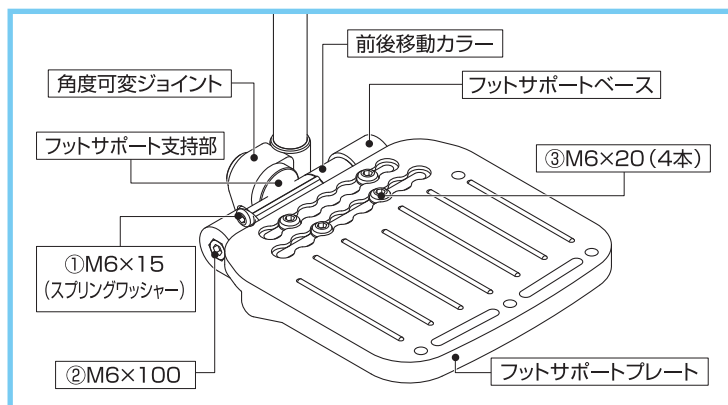
⚠ 注意

- スイングアウトや取り外し・取り付け操作時に、手をはさまないように注意してください。

していただく

アジャスタブルフットサポート（前後&角度調整）

各部名称



※適正トルク

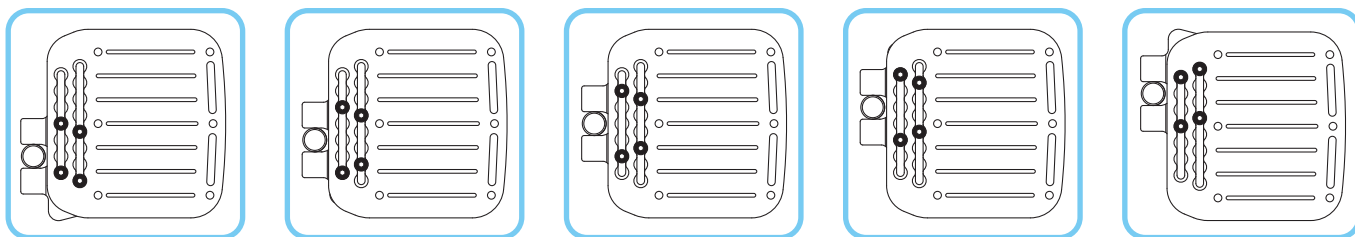
- ①M6×15…10Nm
- ②M6×100…7Nm
- ③M6×20…7Nm

前後調整方法

基本的な調整方法

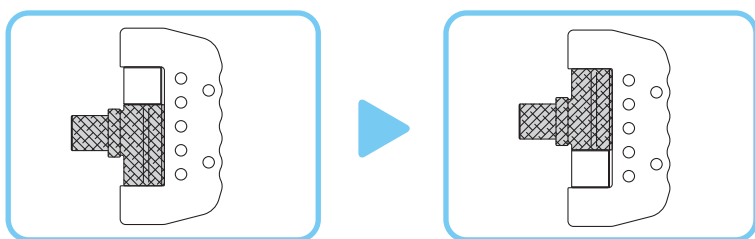
● ボルト位置

③M6×20 (4本) を取り外します。このとき、フットサポートベース裏側のナット (4個) を無くさないようにしてください。下の図のように、前後5段階に調節ができます。(13mm間隔) 4本のボルトを締めてください。
※ボルト位置は図のようにできるだけ離れた位置を使用します。



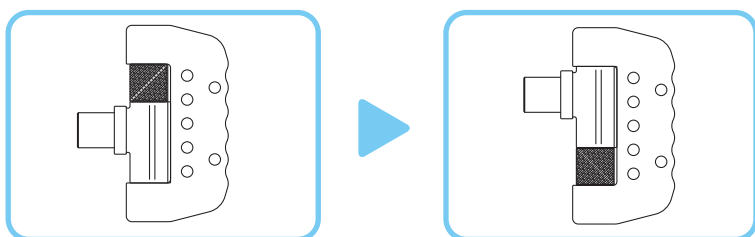
さらに調整する方法(その1)

②M6×100を取り外します。下の図のように、前後移動カラーを組み替えることで、さらに20mm調節ができます。



さらに調整する方法(その2)

①M6×15をゆるめます。(取り外す必要はありません) ※このとき、スプリングワッシャーを無くさないようにしてください。左右のフットサポート支持部を取り外し、左右を入れ替えることで13mm調節位置を変えることができます。



注意

●①②③のボルトは必ず締めて下さい。フットサポートが外れ、ケガをする恐れがあります。

していただく

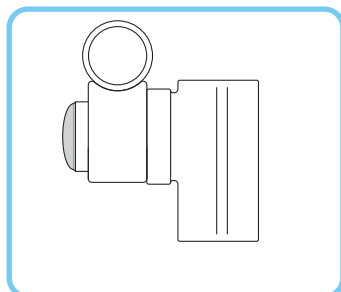
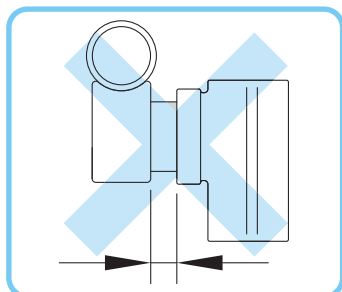
角度前後調整方法

①M6×15をゆるめます。(取り外す必要はありません)

※このときスプリングワッシャーを無くさないようにしてください。

フットサポートプレート全体をしっかりと持ち、最適な位置へ角度を変更してください。

※このときフットサポート支持部と角度可変ジョイントの間にすき間がないようにしてください。



⚠ 注意

- すき間がある状態で使用するとフットサポートが外れケガをすることがあります。

してはいけない

位置が決まったら、①M6×15を締めてください。フットサポートが動かないか確認してください。

⚠ 注意

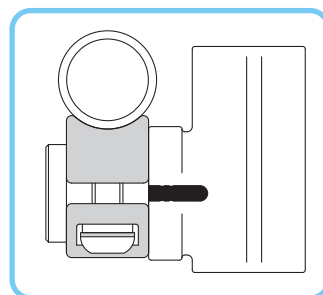
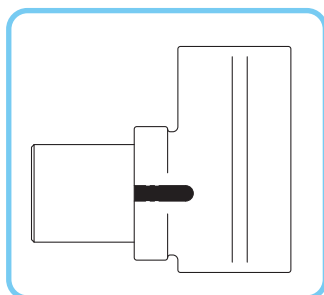
- ①のボルトは必ず締めてください。フットサポートが急に角度が変わったり、外れたりして、ケガをする恐れがあります。

していただく

👉 1Point

フットプレートを初期設定に戻したい場合

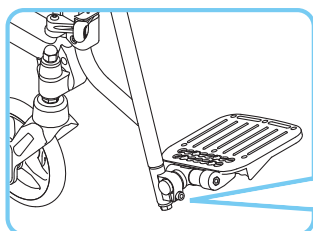
フットプレート支持部の下側に突起が設けてあります。この突起を角度可変ジョイントのすき間に合わせてください。



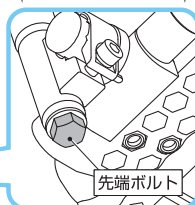
フットサポートの調整

〈高さ(長さ)の調整〉

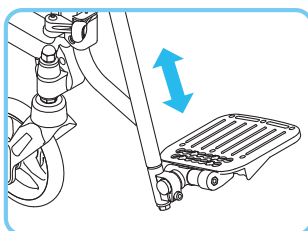
付属品のスパナで先端ボルトを少し動かすところまで緩める。



〈フットサポート裏側から見た図〉



高さを調節し、先端ボルトを締める。

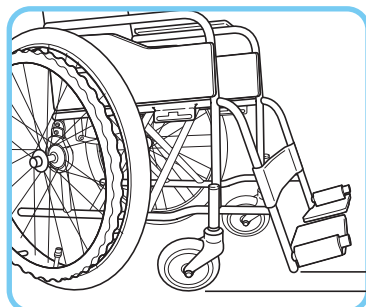


⚠ 注意

- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。(フットサポートが脱落し事故の原因になります。)

していただく

※適正トルク
20Nm



⚠ 注意

- フットサポートの高さは地面より5cm以上で使用ください。(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒事故の原因になります。)

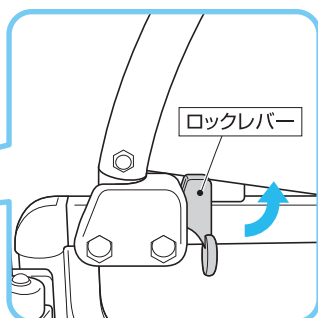
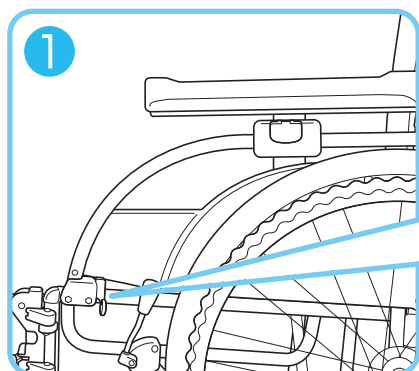
していただく

アームサポート(新タイプ)跳ね上げ & 着脱

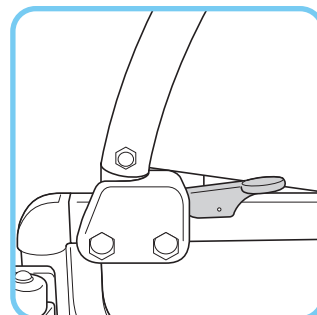
アームサポートの跳ね上げ

●両側のアームサポートが後方に跳ね上がりますので、横からの乗り移りがしやすくなります。

① ロックレバーを矢印方向に起こす。

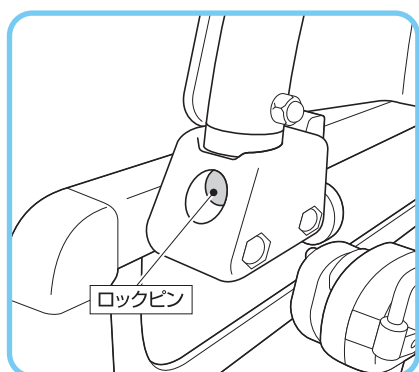
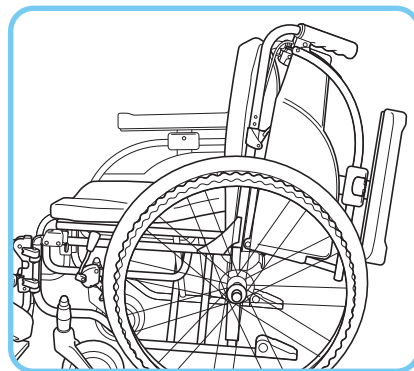
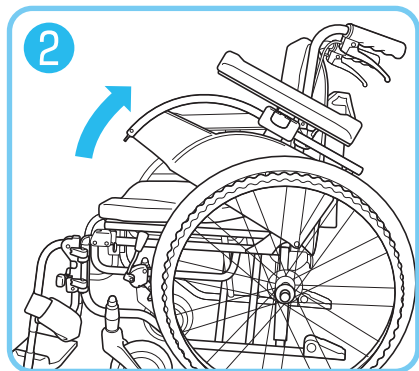


(解除した状態)



② アームサポートを後方に上げる。

(跳ね上げた状態)



⚠ 注意

- アームサポート(新タイプ)跳ね上げをもどしたときは、ロックレバーのピンが完全にロックされていることを確認してください。(転落事故の原因となります。)

していただく

⚠ 注意

- アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。(ケガ、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

⚠ 注意

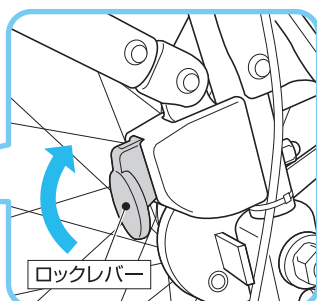
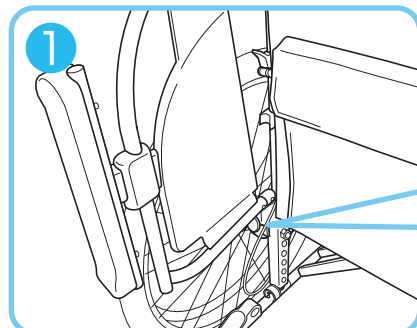
- アームサポートを跳ね上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。(破損の原因となります。)

してはいけない

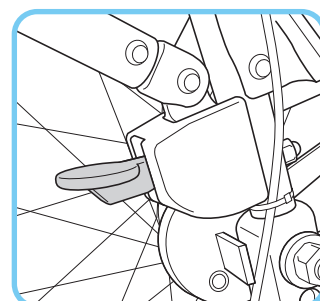
アームサポートの着脱

●アームサポートの着脱に加えて、取り外すこともできます。前ページのように、アームサポートを後方に跳ね上げてください。

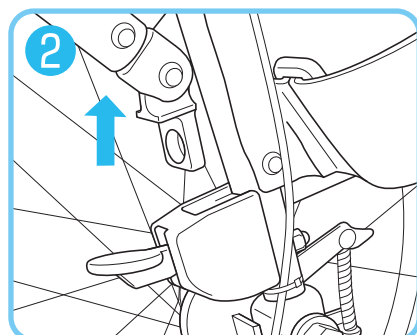
① ロックレバーを矢印方向に起こす。



(起こした状態)

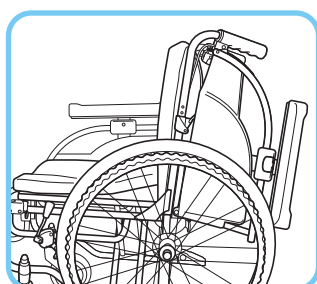


② 上に持ち上げて外す。

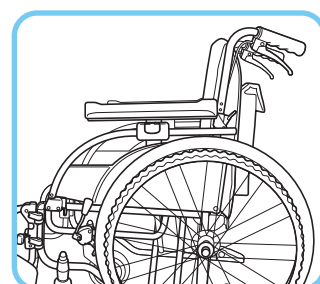


●取りつける場合

① 後方のロックを確認してください。



② アームサポートをおろし、ロックを確認してください。



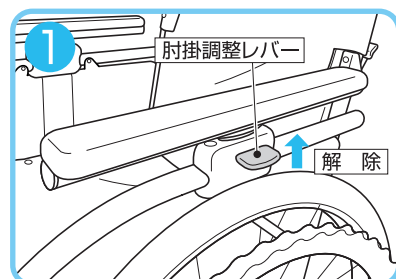
⚠ 注意

●アームサポートを取りつけたときは、完全にロックしていることを確認してください。
(転落事故の原因となります。)

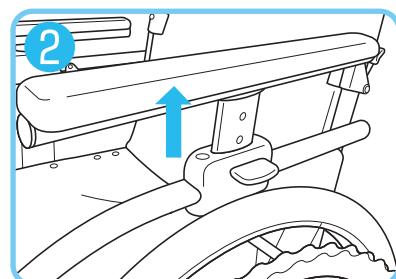
してはいけない

アームサポートの調整

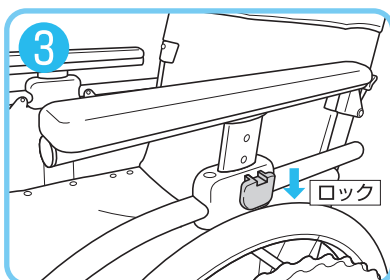
●肘掛(パット)の高さを250~330mmまで5段階に調整することができます。



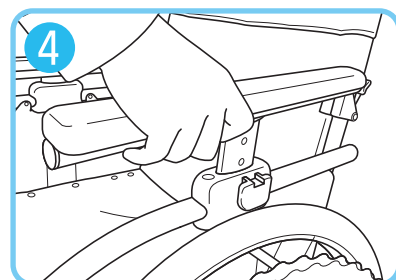
① 肘掛調整レバーを解除位置にする。



② 肘掛の高さを適当な位置にする。



③ 肘掛調整レバーをロック位置にする。



④ 肘掛を上下に動かしロックされていることを確認してください。

⚠ 注意

●ロックが確実にされていることを確認してください。

していただく

⚠ 注意

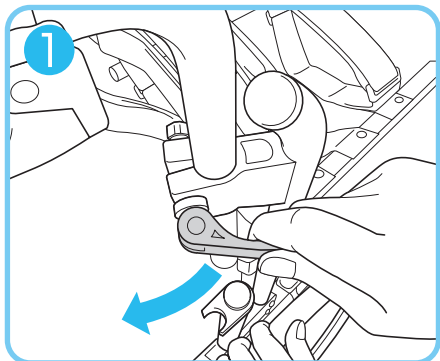
●肘掛(パット)の下に手などを入れないようにしてください。

していただく

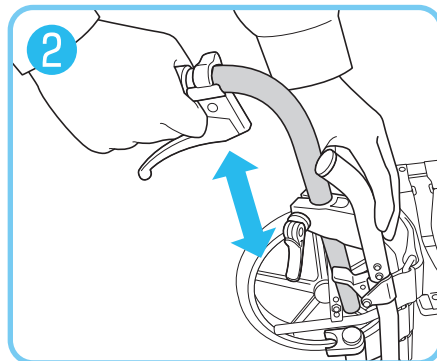
押し手高さの変更

●介助者の身長に合わせて、押し手の高さを変更することができます。

① クイックレバーをゆるめます。

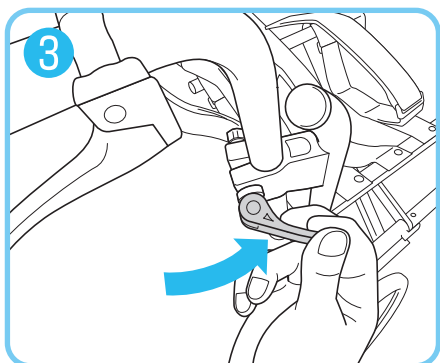


② 押し手をスライドさせ、高さを調整します。



※押し手には20mm間隔で溝が設けてあります。

③ クイックレバーを締めます。



※押し手が動くときは、クイックレバーのナットを締めてください。

④ 押し手がしっかりと固定されているか確認します。

! 注意

●押し手がぐらつかないようにしてください。

していただく

使用方法

乗り方・降り方



警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒事故の原因となります。)

していただく



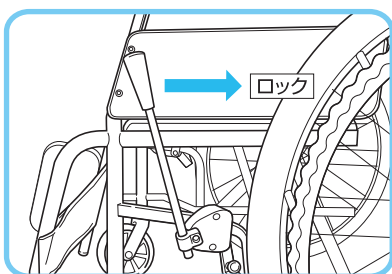
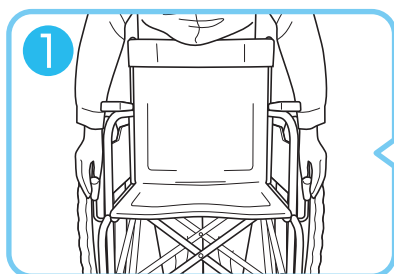
注意

- 車いすの乗り降りのは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車いすが動いたりして、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

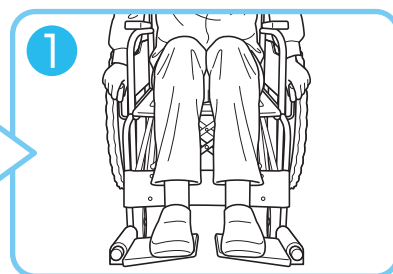
乗る時

- 1 ブレーキを両側ロックする。

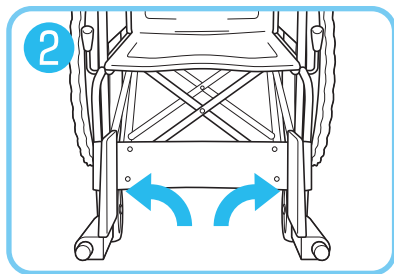


降りる時

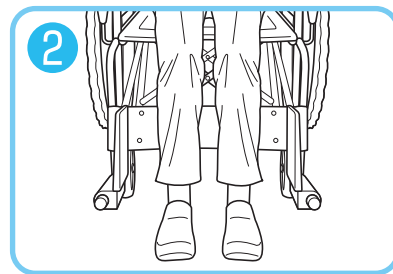
- 1 ブレーキを両側ロックする。



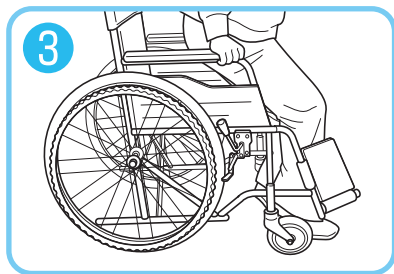
- 2 フットサポートを両側上げる。



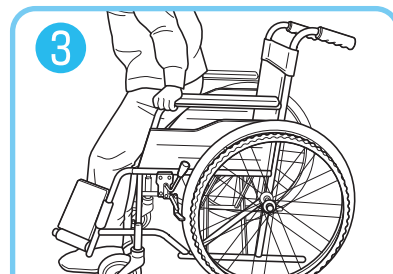
- 2 フットサポートを上げ、足を下ろす。



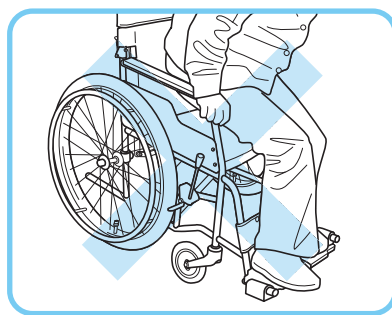
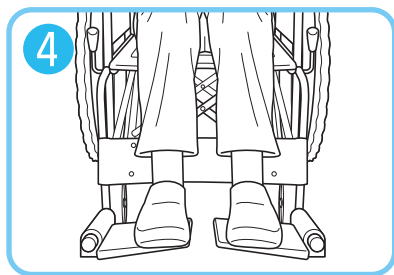
- 3 両手で、アームサポートを持ちゆっくり座り込む。



- 3 両手で、アームサポートを持ちゆっくり立ち上がる。



- 4 フットサポートに足を乗せる。



警告

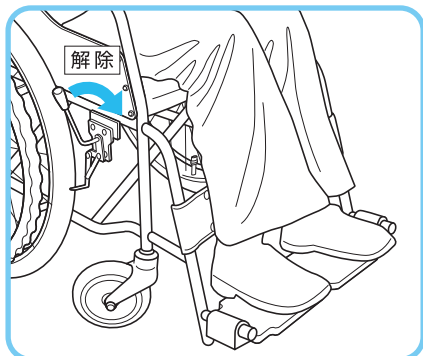
- フットサポートの上に乗って、乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
(車いすがバランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

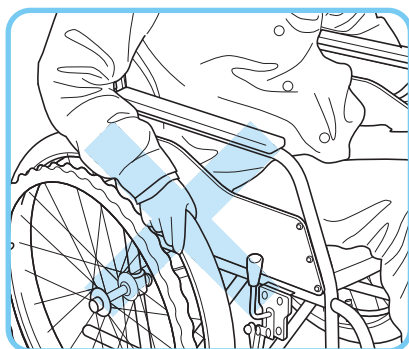
動かし方

(自走用車いすの場合)

ブレーキロックを解除する。



ハンドリムを握り、車輪を回転させ移動させる。



⚠ 注意

- タイヤを持って車いすを操作しないでください。
(ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。)

してはいけない

⚠ 注意

- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
(摩擦で、手にケガをする恐れがあります。
そのようなご使用をされる場合は、車いす用手袋〈オプション仕様〉をご使用ください。)

してはいけない

⚠ 注意

- 走行中、身体を乗り出さないでください。
(バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

⚠ 注意

- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
(手や指を挟んで、ケガをする原因となります。)

してはいけない

※このような場合にはオプションのスポークカバーのご使用をおすすめします。

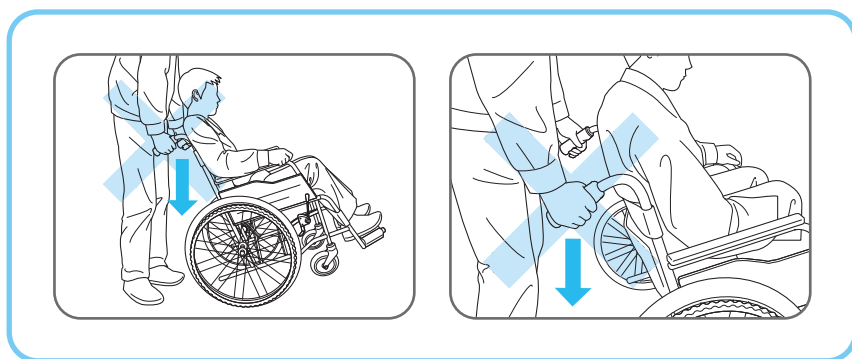
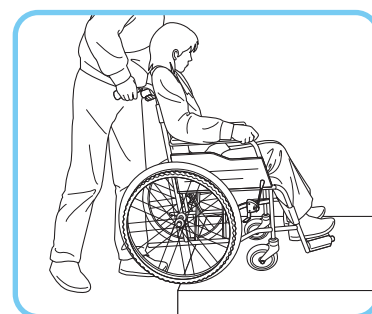
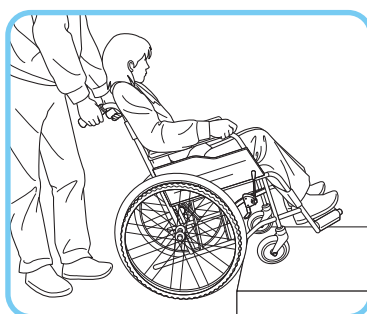
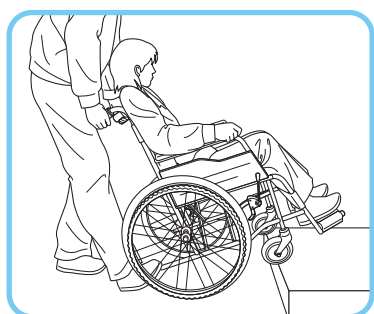
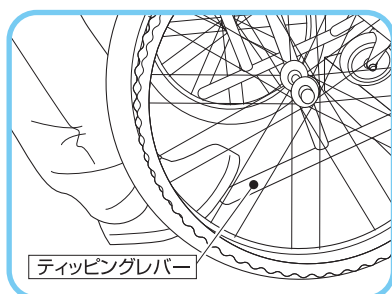
次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。

- ・坂道の登り下り
- ・踏み切りの横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・電車への乗車、下車
- ・段差乗り越え
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行

介助の仕方

介助者援助をお願いしてください。

介助者の方は、段差を乗り越える場合は、ティッピングレバー（プレート）を踏んでキャスト（前輪）を上げ、段差に乗せてから、後輪を浮かし乗り越えてください。



⚠ 注意

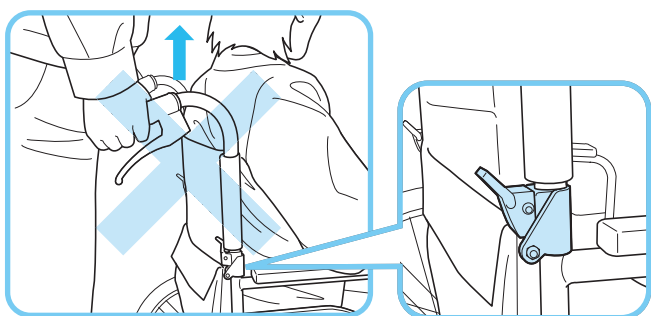
- バックサポートパイプのみで、キャスト（前輪）を上げないでください。（バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒事故の原因となります。）

してはいけない

⚠ 注意

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。（使用者が車いすから転落して事故の原因となります。）

してはいけない



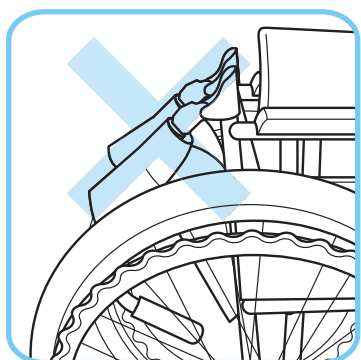
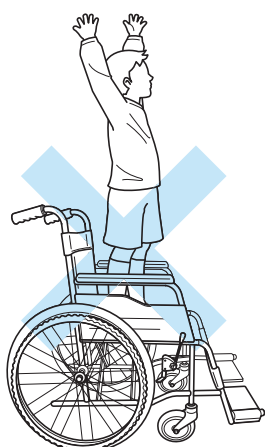
! 注意

●バックサポートが折りたたみの場合は、使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。
(パイプが外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

車いすを持ち上げようとして次のような箇所は、持たないでください。

- ・バックサポートが折りたたみ式のバックサポートパイプ部
- ・アームサポートが、(新タイプ) 跳ね上げ&着脱のアームサポート部
- ・フット・レッグサポートが、(新タイプ) スイングアウト式のフット・レッグサポート部



! 警告

●車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
(転倒事故の原因となります。)

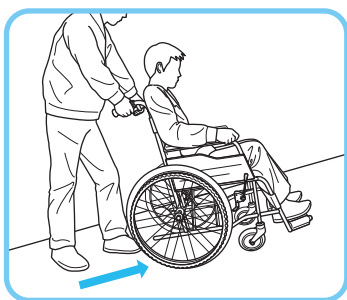
してはいけない

外出時の注意

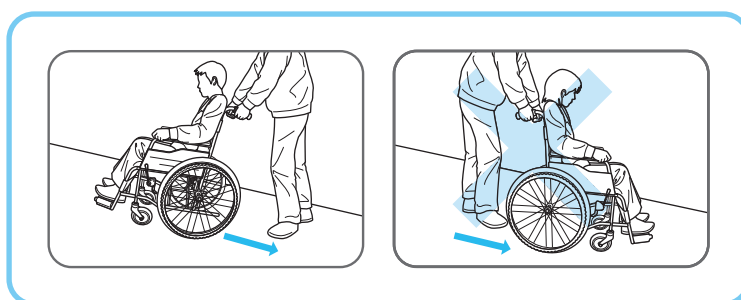
介助者援助をお願いしてください。

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。

登り坂



下り坂

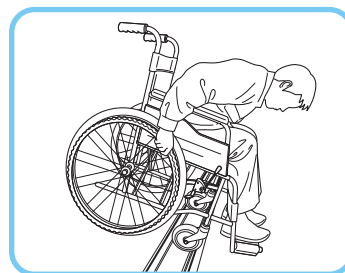
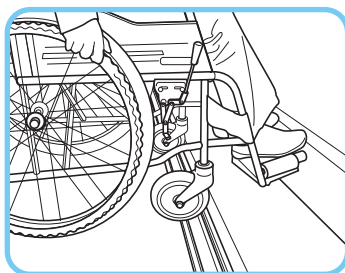
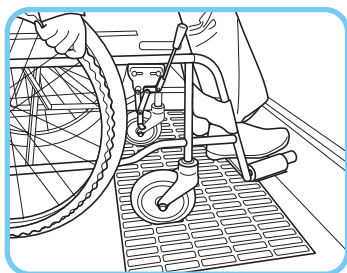


! 注意

●坂道を下るとき介助者の方は、車いすを後ろ向きにし、ゆっくり確認しながら走行してください。
(前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。)

していただく

介助者援助をお願いしてください。



警告

- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。
(車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。)

していただく



注意

- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
(車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因となります。このような、環境条件でご使用される場合は、ワイドキャスト(オプション仕様)をご使用ください。)

していただく

【介助者の方へ】



注意

- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

していただく



注意

- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

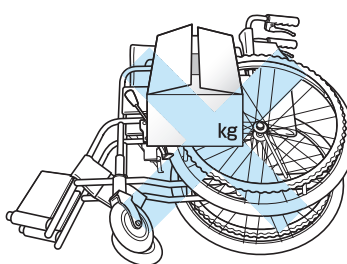
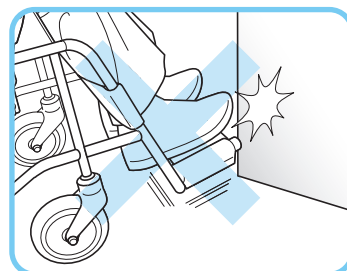
していただく



注意

- 車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。
(重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因になります。)

してはいけない

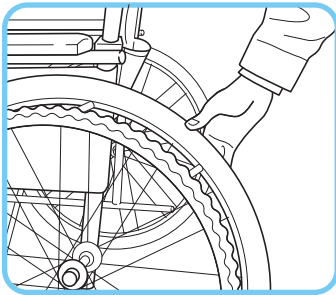


- 階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合
ベースパイプ・バックサポートの固定されている箇所を持って、4~5人で支えてもらってください。

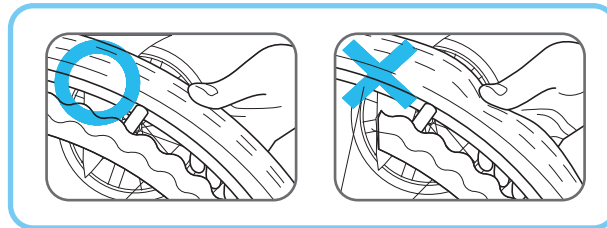
ご使用の前に

■安全にご使用していただく為、次の確認をお願いします。

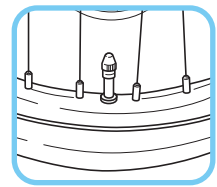
- ・タイヤの磨耗・亀裂はないか。
- ・タイヤの空気圧は適正か。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。



タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、エアーを
自転車用空気入れで補充してください。
(最適空気圧:250~300kPa)



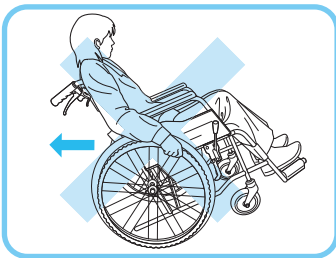
タイヤの空気バルブの
ネジが緩んでいないか
確認してください。



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
(ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。
また、タイヤのパンクの原因となります。)

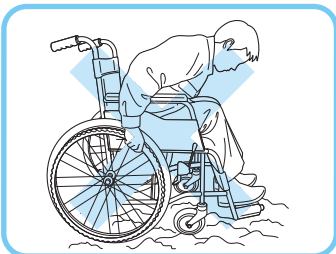
してはいけない



注意

- バックしながら急停止しないでください。
(転倒事故の原因となります。)

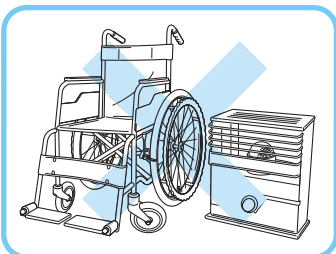
してはいけない



注意

- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
(バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。)

してはいけない



注意

- 火気の近くに置かないでください。
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え、火災の原因となります。)

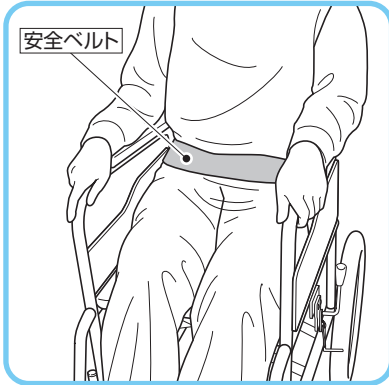
してはいけない

車いすのオプション

車いすをより使いやすくするために、いろいろなオプションが用意してあります。
(車いすにより取り付けできない場合がございます。販売店、または(株)松永製作所までご相談ください。)

安全ベルト

●使用者が、車いすから転落したり、ずり落ちるのを保護します。



⚠ 注意

●安全ベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。
(衝撃などで転落し事故の原因となります。)

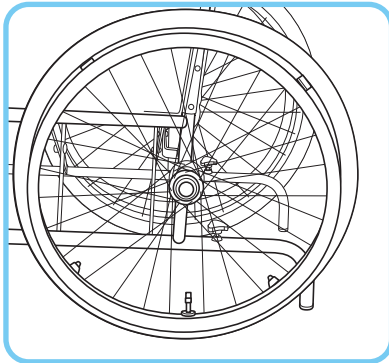
していただく

⚠ 注意

●安全ベルトのマジック式は、糸くずや汚れを取り除いてください。
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故の原因となります。)

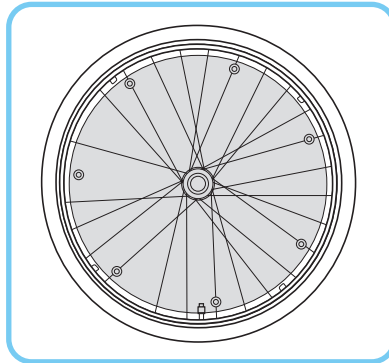
していただく

転倒防止



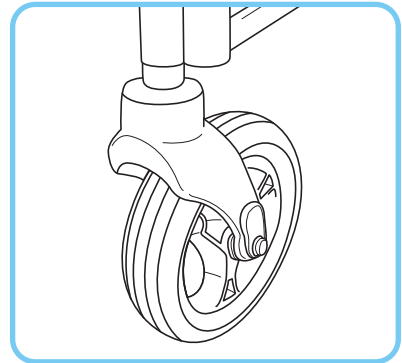
車いすが後方へ倒れるのを防止します。

スポークカバー



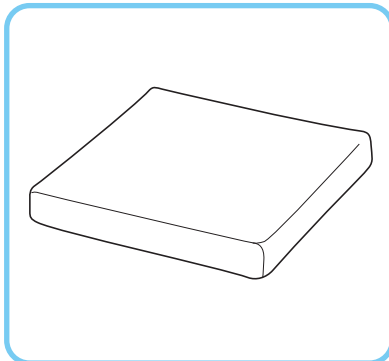
車輪(スポーク)に手を入れケガをする事を防止します。

ワイドキャスター



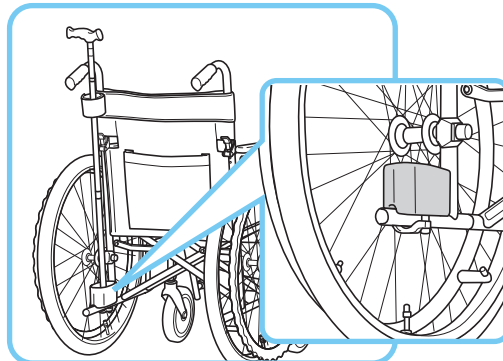
タイヤ幅を広くし、溝などへ落ちにくくしています。

クッション



体重の圧力を分散し、快適に座ることができます。
(いろいろな種類があります。)

杖入れ



車いす後方に、杖を収納することができます。

その他にも

- テーブル
 - ガードル架
 - ボンベ架
 - 泥よけ
- などご用意しております。

詳しくは、カタログをご覧ください。

車いすの寸法変更

座高の変更

●キャスト・大車輪のサイズの変更や、取り付け位置を変更することにより、車いすの座高を変更することができます。また、自走⇔介助タイプの変更も可能です。

〈自走タイプ〉

前座高 (m/m)	後座高 (m/m)	キャスト サイズ	キャスト ブロック位置	アジャスタ ブルフォーク位置	大車輪 サイズ	車軸位置
380~425	360	5	上	a~e	20	②
	365				18	④
	370				20	③
	375				18	⑤
400~445	385		下	b~e	20	④
400~440	395				22	③
410~445	400				20	⑤
420~440	415				22	④
430~440	425	6	上	b~e	20	③
405~435	375				22	④
400~435	385				20	⑤
400	395				22	③
410~435	410		下	b~e	22	④
425~455	400				20	⑤
420~455	405				20	④
430~455	425				22	⑤
420~445	400	7	上	c~e	22	③
440~465	415					④
415	415					④
440~465	430	下	c~e	c~e	22	④
						⑤

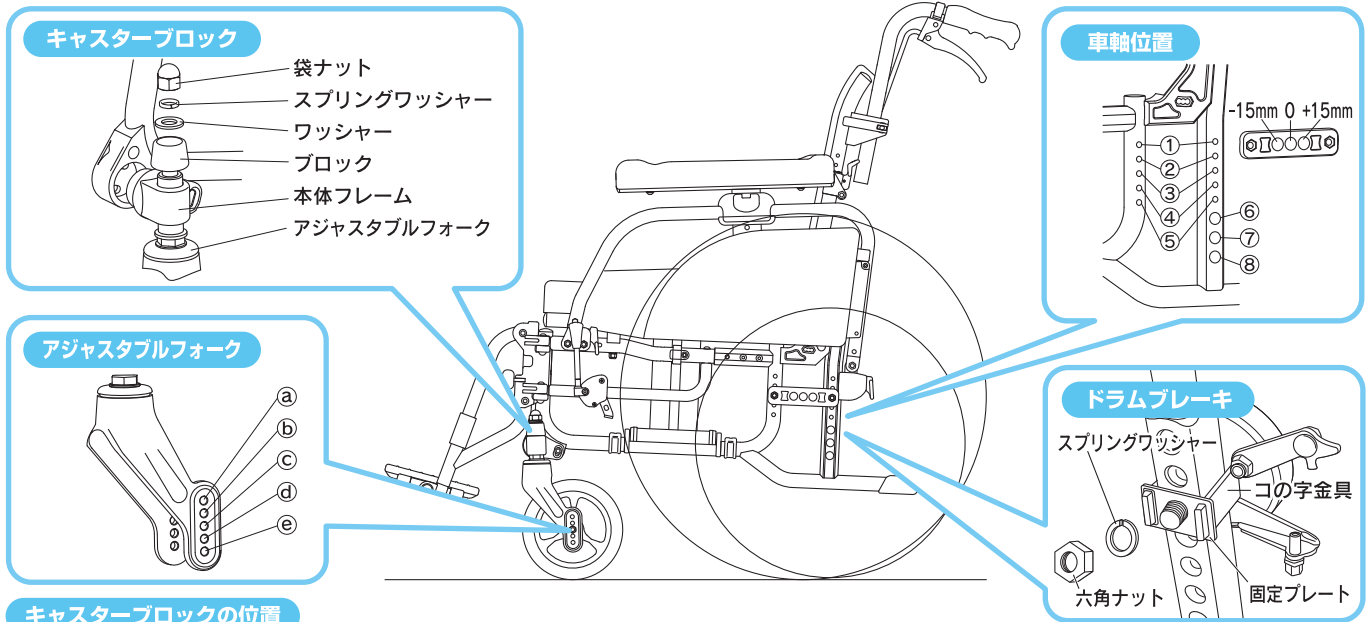
〈介助タイプ〉

前座高 (m/m)	後座高 (m/m)	キャスト サイズ	キャスト ブロック位置	アジャスタ ブルフォーク位置	大車輪 サイズ	車軸位置
385~425	375	5	上	a~e	16	⑥
400~445	395		下	c~e		⑦
420~445	415		⑧			
405~435	375	6	上	b~e	⑥	
405~435	395		⑦			
420~445	415	7	下	c~e	⑧	
440~465	415		⑧			

注意

●上記の組み合わせ以外では使用しないでください。

してはいけない



キャストブロックの位置

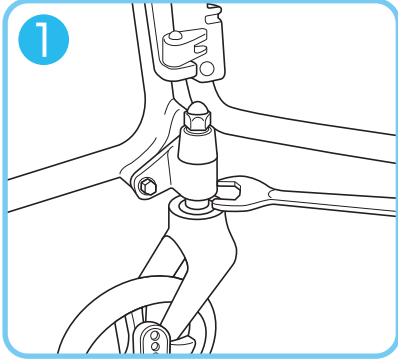


コの字金具を固定プレートの四角穴にはめてください。

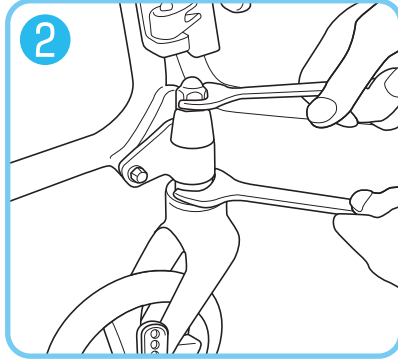
キャスターブロック位置の変更

使用工具 ・ 対辺19mm 薄口スパナ ・ 対辺19mm スパナ

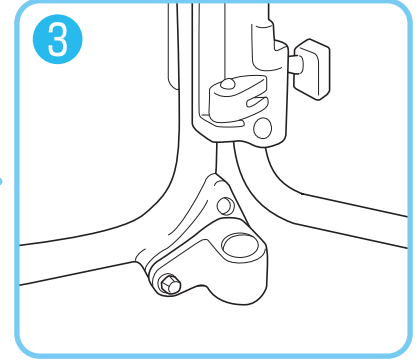
① 図のようにブロック下側を対辺19mmの薄口スパナで押さえます。



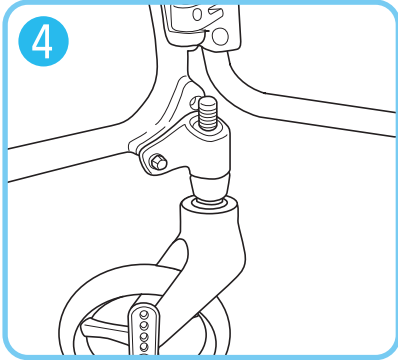
② ブロック上の袋ナットをスパナで取り外します。



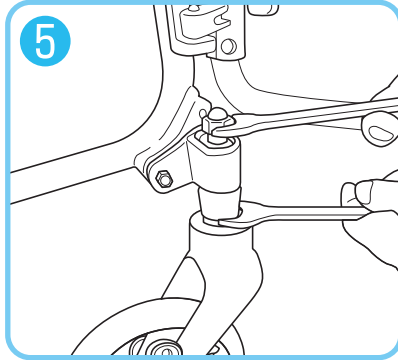
③ アジャスタブルフォーク・ブロックを取り外します。



④ 前ページの組み合わせに従って、順番に取り付けます。



⑤ 袋ナットをしめてください。



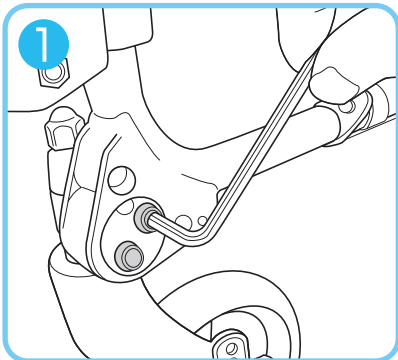
※適正トルク
15~20Nm

キャスター角度調整

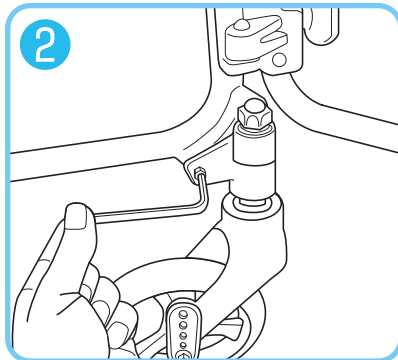
使用工具 ・ 対辺5mm 六角レンチ

● キャスターブロックの位置変更・車輪位置の変更を行ったときにキャスターの施回軸が垂直になっていない場合に角度を変更することができます。

① キャスターブロック内側のボルト2本をゆるめます。



② キャスターブロック外側後のボルトをゆるめ、角度を垂直になるように合わせます。



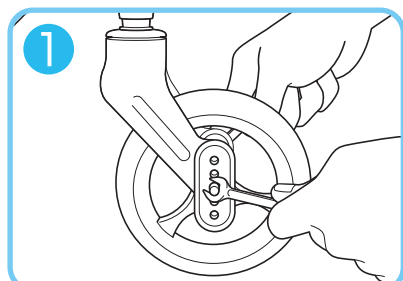
③ ゆるめたボルト(後1本・内側2本)を締めます。

※適正トルク
10Nm

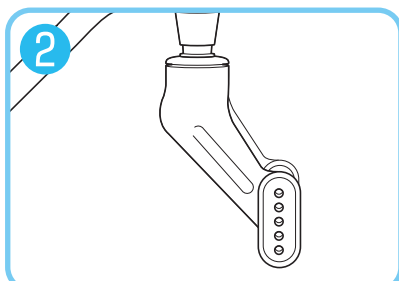
アジャスタブルフォーク穴位置の変更

使用工具 ・ 対辺10mm スパナ 2本

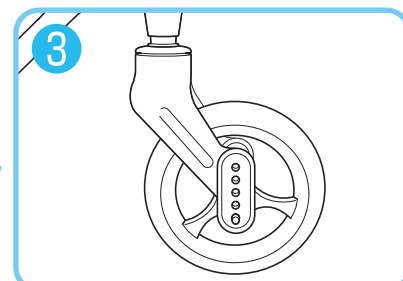
① キャスターを取り付けているボルトの頭を対辺10mmのスパナで押さえ、もう一方のナットを取り外します。



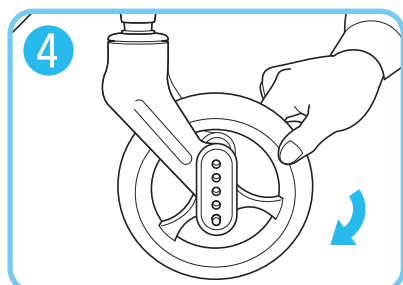
② ボルトを引き抜き、キャスターを取り外します。



③ P.22の組み合わせに従って、取り付けます。



④ ナットをしめつけて、キャスターの回転を確かめてください。



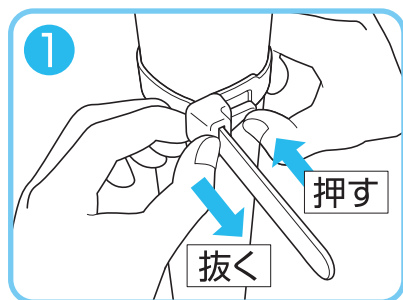
※ 適正トルク
7Nm

車輪の変更

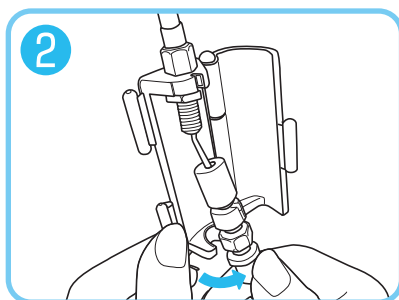
使用工具 ・ 対辺 5mm 六角レンチ ・ 対辺10mm スパナ
・ 対辺19mm スパナ 2本 ・ 対辺 8mm スパナ

- 車輪を変更しない場合は、キャリパーブレーキのワイヤーを取り外す必要がありませんので④から始めてください。
- 作業の前に、ワイヤー固定バンドを外してください。(手順①)
- 介助型⇒自走型へ変更する場合はブレーキを最前位置にしてください。

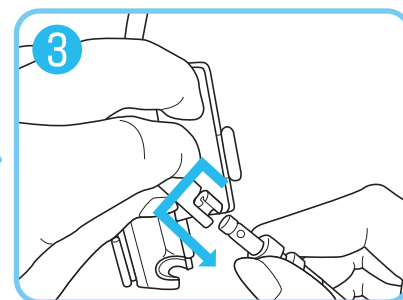
① ワイヤー固定バンドのツメを押さえながら、抜く。



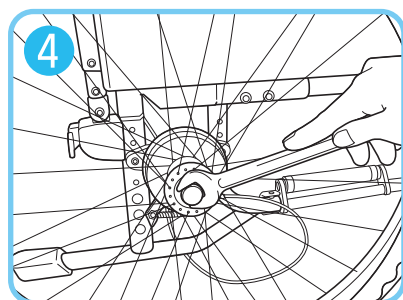
② ワイヤー着脱ケースのふたを開け、下部を外す。



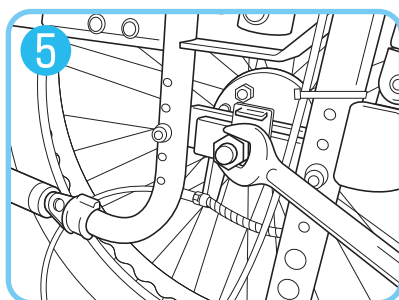
③ 溝に沿って外す。



④ 大車輪外側のボルト頭をスパナで押さえます。(介助用は押さえる必要はありません。)

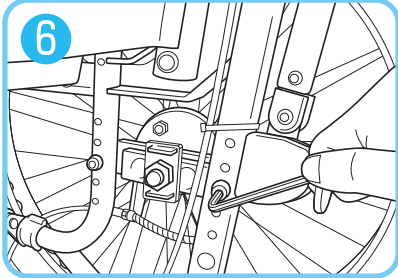


⑤ 車いすフレームの内側のナットを取り外し、車輪を取り外す。(スプリングワッシャー・固定プレート)

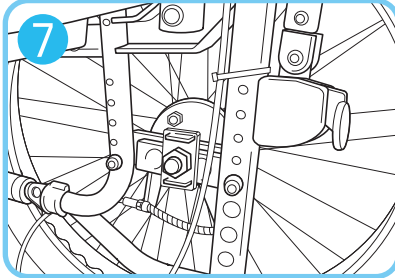


- 車輪の前後位置(-15,0,+15)を変更しない場合は、車輪を取り外さずにアジャスタブルプレート的位置変更ができます。

6 六角レンチでアジャスタブルプレートを取り外す。



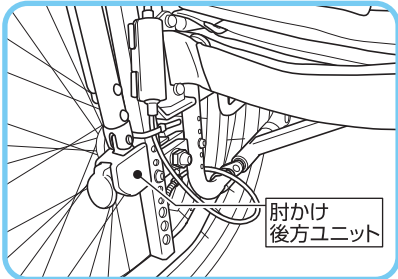
7 P.22の組み合わせに従って、アジャスタブルプレートを取り付け、車軸位置(-15,0,+15)を確認し、車輪を取り付けます。(※7-1,7-2参照)



●介助型の場合はアジャスタブルプレートは取り付ける必要はありません。

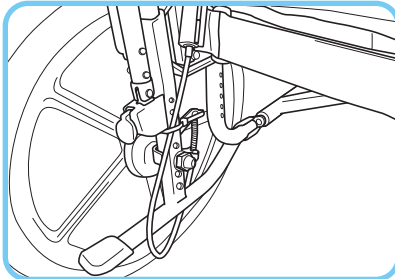
7-1 自走用車輪の場合

前方の車軸パイプの前をくぐらせる。ワイヤー固定バンドを肘かけ後方ユニットの上側でとめる。



7-2 介助用車輪の場合

ベースパイプの下をくぐらせて、U字型にする。ワイヤー固定バンドを車軸の上側でとめる。



8 固定プレート、スプリングワッシャー、ナットの順に取り付け、大車輪の外側のボルト頭をスパナで押さえながらナットをしめます。

9 ブレーキの調整 (P.26) をします。

10 ③→②→①を逆の手順で行います。

※②のときは、「パチン」というまで、しっかりとはめてください。

11 キャスター角度調整 (P.23) をしてください。12 各部の点検を行い、試乗して確認してください。

注意

- 車輪の取り付け、取り外し時には、大車輪の外側のボルト頭を必ずスパナで押さえてください。
- 車輪の取り付け時に、コの字金具を固定プレートの四角穴にはめてください。(P.22参照)

していただく

注意

- 車輪を交換する場合、初めにワイヤー着脱ケースの調整ねじが初期状態(下記「ワイヤーの張り調整」手順①参照)であることを確認してから、行ってください。そうでない場合も、必ず初期状態に戻してから行ってください。(下記「ワイヤーの張り調整」参照)

していただく

ワイヤーの張り調整

使用工具

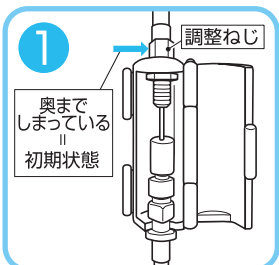
・対辺10mm スパナ ・対辺 8mm スパナ

●車輪を交換するときは、調整ねじを必ず初期状態(手順①参照)に戻してから行ってください。(戻さない場合は、取り付けが出来ない構造になっています。)

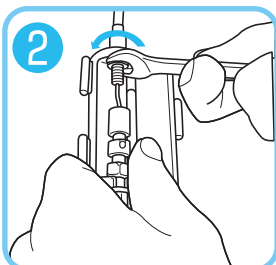
※適正トルク
5Nm

1 ワイヤー着脱ケースのふたを開ける。

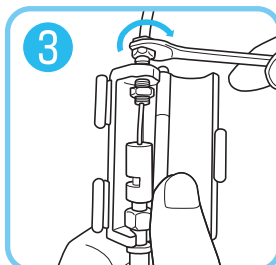
※調整ねじが、この位置のときを初期状態という。



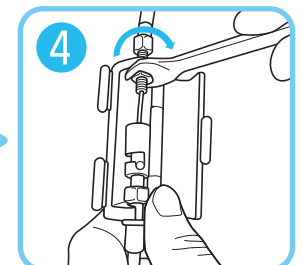
2 スパナでゆるめる。



3 最適な位置まで、調整ねじをゆるめる。



4 ナットをしめる。



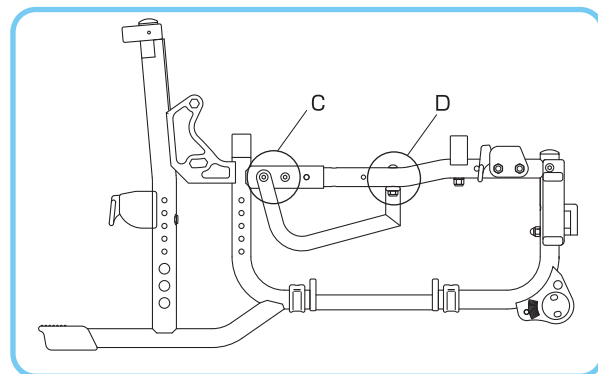
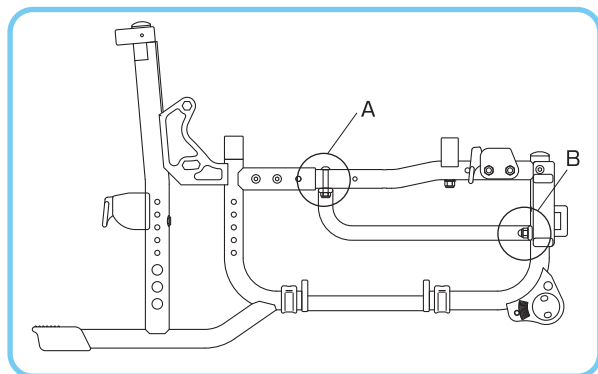
自走式⇔介助式の変更

使用工具 ・ 対辺4mm 六角レンチ ・ 対辺10mm スパナ

●車輪を変更し、自走式⇔介助式の場合には、ブレーキステーの交換が必要になります。

〈自走タイプ〉

〈介助タイプ〉

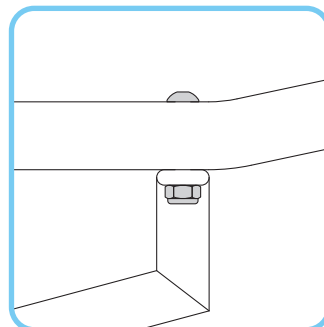
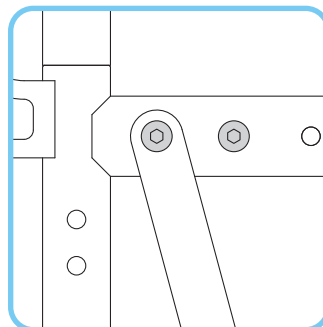
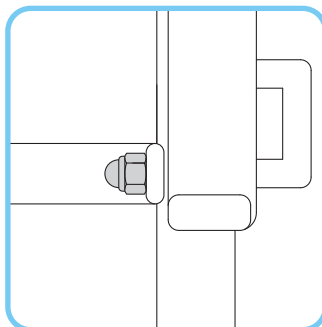
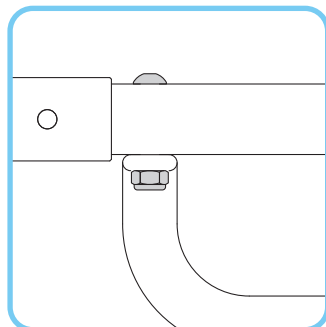


①部

②部

③部

④部



① ①、② 部または③、④ 部のボルト・ナットを取り外し、ステーを取り除きます。

② 上の図に従って、ステーを取り付けます。

③ ナットを締め、ブレーキ位置を調整してください。

※ ②と③部は共通のボルトを使用してください。

※適正トルク
7Nm

注意

●ブレーキの効き具合を必ず確認してください。

していただく

ブレーキの調整

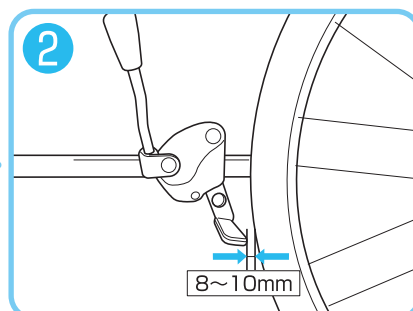
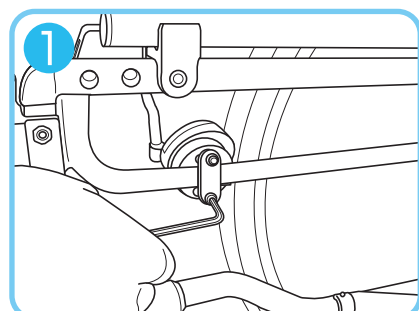
使用工具 ・ 対辺4mm 六角レンチ

●車輪の位置を変更したときなど、ブレーキの位置を調整してください。

① ブレーキ裏のボルトをゆるめ、位置を調整します。

② ボルトを締め、ブレーキの効きを確認します。

●タイヤとブレーキシューの間隔は8~10mmを目安にしてください。



※適正トルク 7Nm

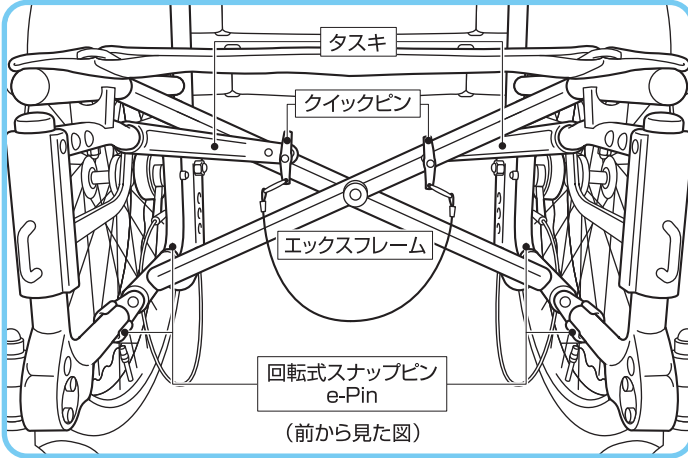
注意

●タイヤの空気圧を確認してから、ブレーキの効きを確認してください。

していただく

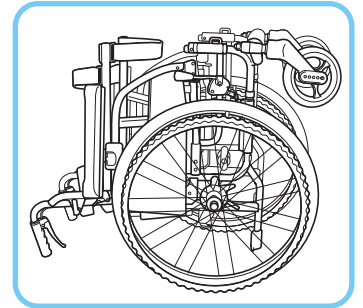
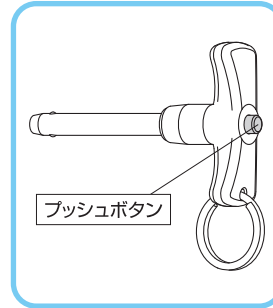
座幅の変更

● 工具を使用せずに、車いすの座幅変更が行えます。

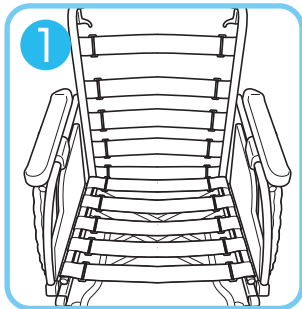


● 車いすを下図の状態にすると変更がより楽に行えます。
(フット・レッグサポートを取り外すP.9)

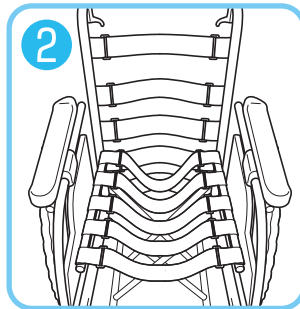
〈クイックピン〉



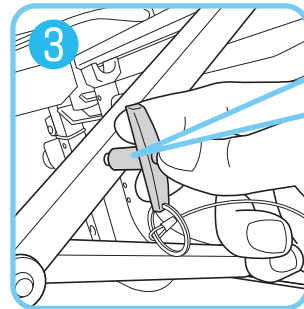
① 背と座のクッションシートを取り外します。



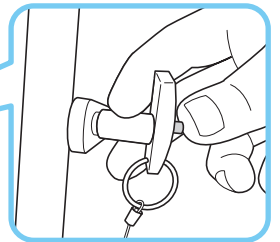
② 車いすを少し折りたたみます。(折りたたみ方P.7)
(完全に折りたたむ必要はありません。)



③ 座フレームタスキ部分のクイックピンを引き抜きます。

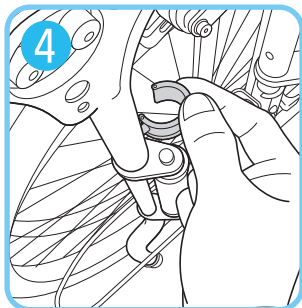


(左右各1ヶ所)

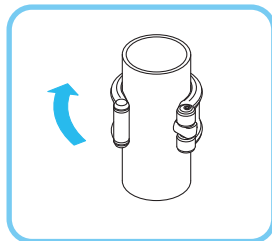


プッシュボタンを押しながらかき抜く。

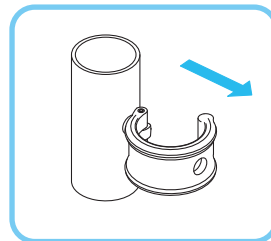
④ 本体フレーム下部の回転式スナップピンを取り外します。
(左右各2ヶ所)



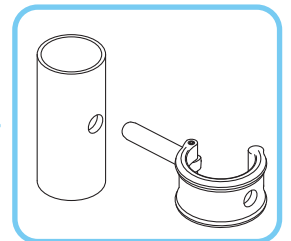
〈回転式スナップピンの取り外し方〉



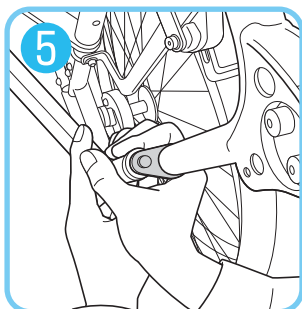
指を引っかけて矢印方向に回転させます。



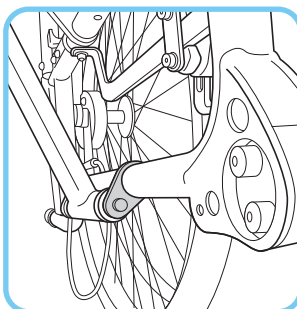
引き抜きます。



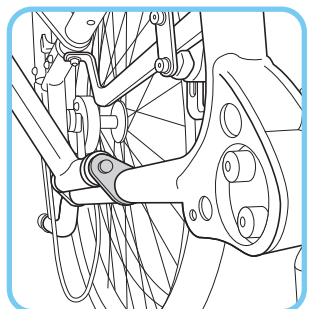
⑤ エックスブラケットを回転させて、穴位置を合わせます。



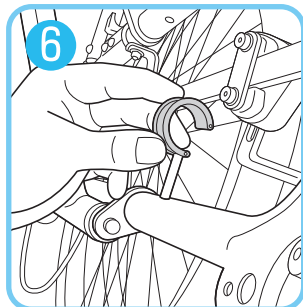
Mサイズ 380巾
Lサイズ 400巾



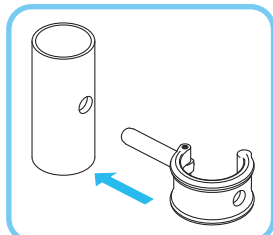
Mサイズ 400巾
Lサイズ 420巾



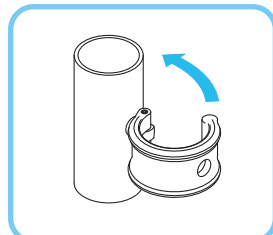
6 回転式スナップピンを取り付けます。



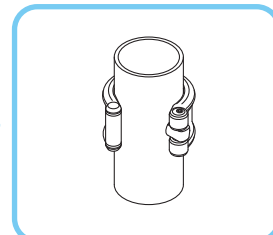
〈回転式スナップピンの取り付け方〉



穴にピンを差し込みます。



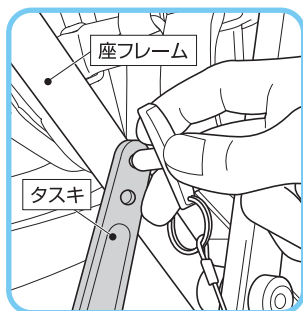
矢印方向に回転させます。



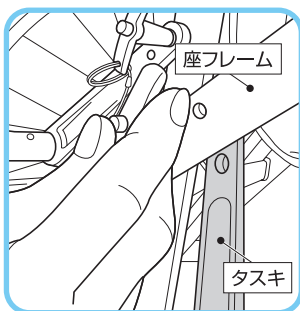
反対側の穴にピンの頭が出ていることを確認します。

7 タスキと座フレームの穴位置を合わせて、クイックピンを挿入します。(プッシュボタンを押しながら)

〈左側〉



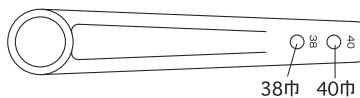
〈右側〉



※左右のタスキと座フレームの位置が異なりますので注意してください。

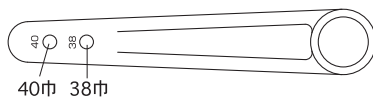
〈タスキの穴位置〉

〈左側〉



38巾 40巾

〈右側〉



40巾 38巾

Mサイズ



40巾 42巾

Lサイズ



42巾 40巾

※座幅により穴位置が異なりますので注意してください。

8 車いすを上げて、背・座のクッションシートを取り付けます。(上げ方 P.6)

9 各部の点検を行い、車いすのぐらつき等がないか試乗して確認してください。

注意

●回転式スナップピン・クイックピンがしっかりとハマっているか確認してください。
(フレームが破損し、転倒などの事故原因となります。)

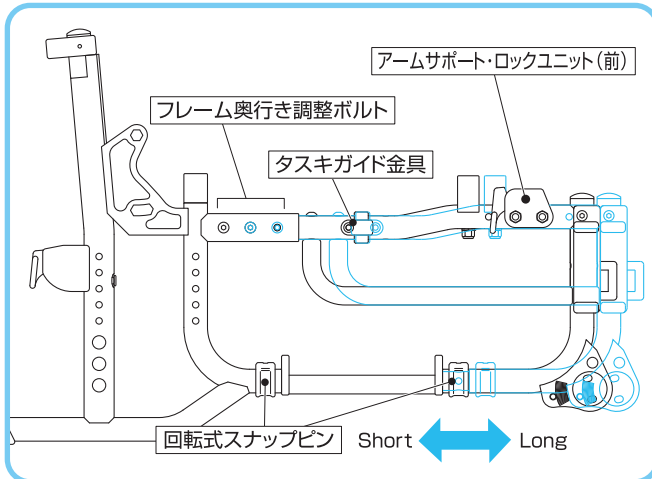
していただく

フレーム奥行きの変更

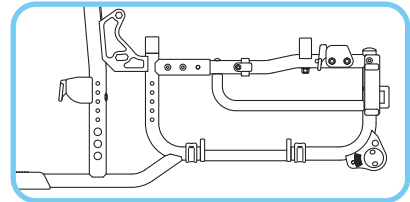
使用工具

- ・対辺19mm スパナ
- ・対辺10mm スパナ
- ・対辺 5mm 六角レンチ
- ・対辺 4mm 六角レンチ

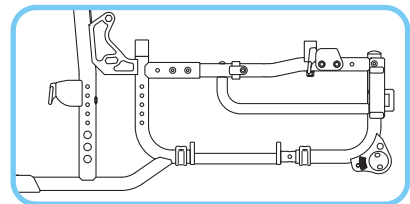
●車いすのフレーム奥行きを2段階で変更することができます。



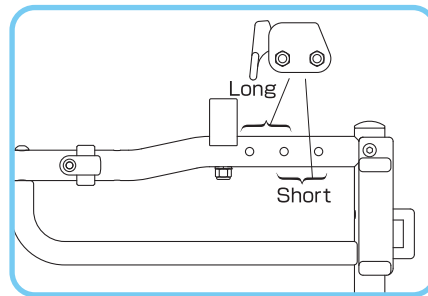
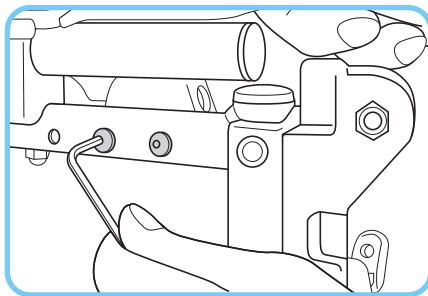
〈Shortの場合〉



〈Longの場合〉

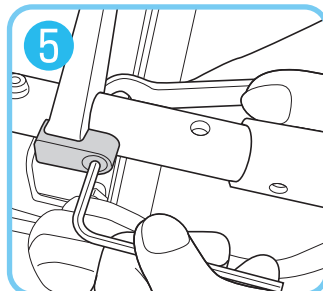
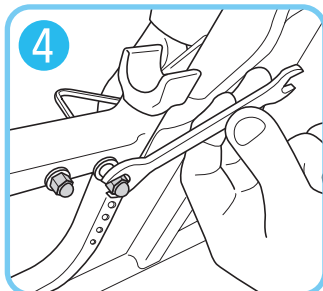


- 1 アームサポートを跳ね上げ、取り外します。(P.12参照)
- 2 大車輪を取り外します。(P.24 ④、⑤を参照)
- 3 アームサポート・ロックユニット(前)を取り外し、取り付け位置を変更します。

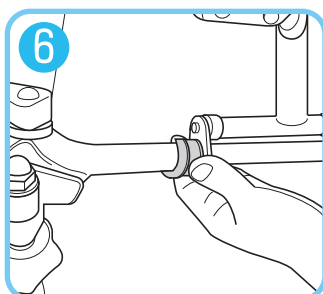


※適正トルク
7Nm

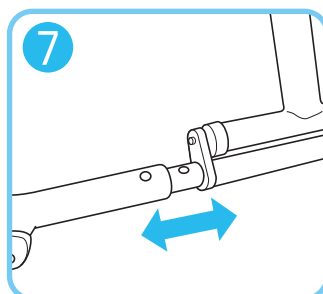
- 4 フレーム奥行き調整ボルトを取り外します。(2本)
- 5 タスキガイド金具を取り外します。



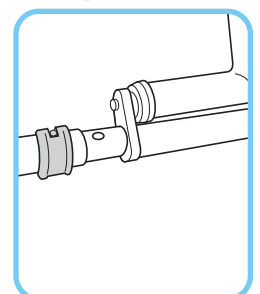
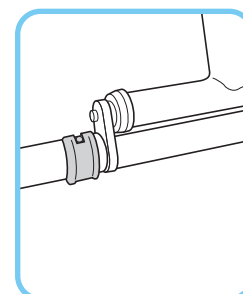
- 6 前側の回転式スナップピンを取り外します。(P.27参照)



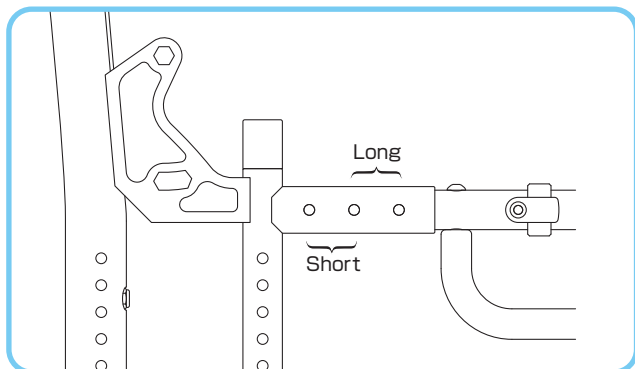
- 7 フレームをスライドさせて穴位置を合わせます。



- 8 回転式スナップピンを取り付けます。
〈Shortの場合〉 〈Longの場合〉

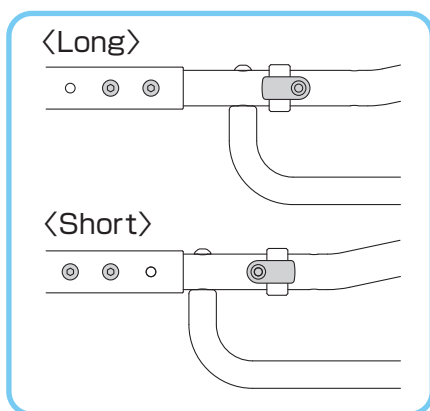


9 フレーム奥行き調整ボルトを取り付けます。



※適正トルク
7Nm

10 タスキガイド金具を取り付けます。



※適正トルク
7Nm

11 大車輪を取り付けます。

※Long⇒Shortへ変更した場合はブレーキが干渉しますので、ブレーキを前側に移動させてから取り付けてください。

12 ブレーキの調整をします。(P.26参照)

13 アームサポートを取り付けます。(P.13参照)

14 キャスターの角度を確認し、必要があれば調整してください。(P.23参照)

15 各部を点検し、試乗して確認してください。



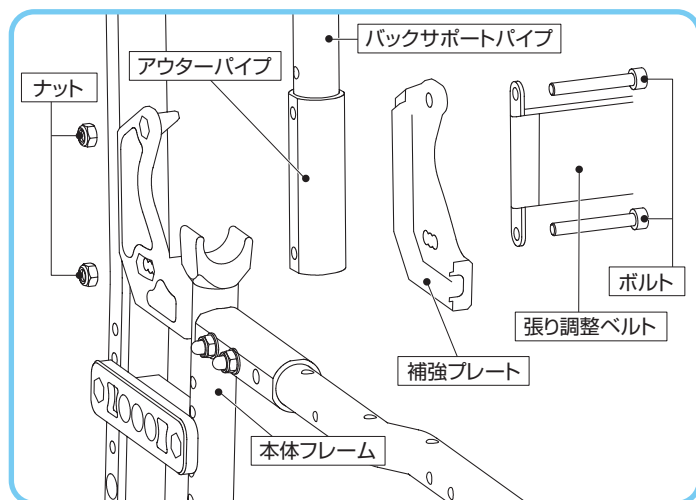
注意

●大車輪のボルト、アームサポート、ロックユニット部のボルト、フレーム奥行き調整ボルト、タスキガイド金具のボルト、回転スナップピン、ブレーキの取り付けは必ず確認してください。

していただく

背もたれの変更方法

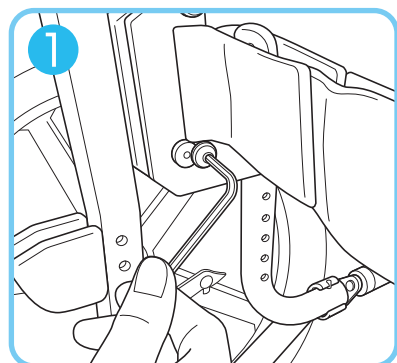
使用工具 ・ 対辺 5mm 六角レンチ



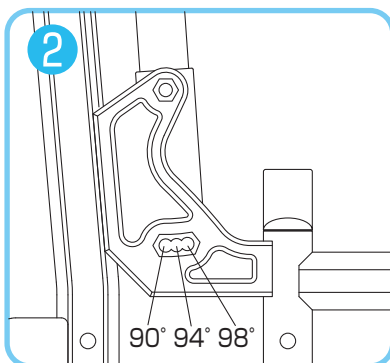
角度変更

● 背もたれの角度を座面に対し、90°、94°、98°の3段階に変更できます。

① 背もたれ固定ボルトの上側をゆるめ、下側は取り外します。



② 変更する位置に取り付けます。



③ 背もたれ固定ボルトをしっかりと締めます。

※適正トルク
7Nm

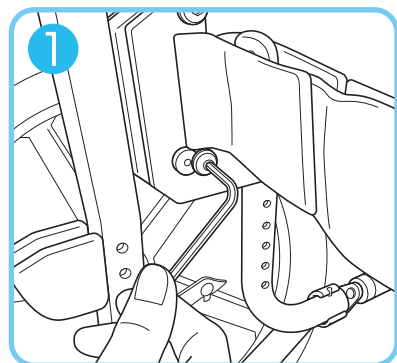
※ 反対側のナットを工具で押さえる必要はありませんが、ボルトを取り外したときに、無くさないようにしてください。

高さ変更

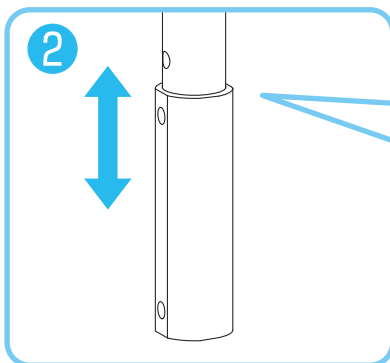
● 背もたれの高さを400mm・420mmの2段階に変更できます。

※適正トルク 7Nm

① 背もたれ固定ボルト(上下2本)を外し、背張り調整ベルト、補強プレートを取り外します。

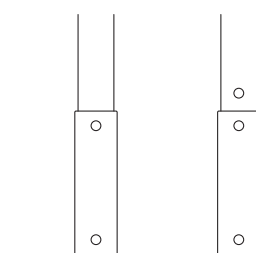


② 背パイプをスライドさせ穴位置を合わせます。



③ 補強プレート、背張り調整ベルトを取り付け、背もたれ固定ボルトを締めます。

高さ: 400mm 420mm



もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用されていて故障かな、と思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
タイヤの空気が少ない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のネジは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	・ムシゴムが劣化していませんか	ムシゴムを交換してください
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・駆動輪・キャストに髪の毛、ビニールが巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト（前輪）が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
バックサポート折りたたみのロックピンが入らない	・車いすを拡げて、バックサポートを折りたたみしていませんか	車いすを折りたたんで、行ってください
キャリパーブレーキが効かない	・ワイヤーが、ねじれていませんか	ワイヤーのねじれを調整してください
	・ワイヤーの遊びが多くありませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・タイヤは、磨耗していませんか	取扱店にご連絡してください

車いすのお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。

揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。

変色したり、劣化の原因となります。

ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤの空気圧は、最適空気圧：250～300kPaを適正に保ってください。

空気圧が少ないときは、補充してください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン (O₃)
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス（自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤（錆落とし含む））。

■車いすに異常がある場合は、取扱店で、点検・修理をおこなってください。

その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・空気漏れ
- 各部固定部品の変形
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ
- 駆動輪・キャストの変形
- キャリパーブレーキ・ブレーキのきき具合

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。
故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ ●直射日光が当たるようなところ ●湿気の多いところ
- 高温室になるようなところ ●炎天下になるようなところ

保証

●保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)

ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。

1. 火災、天災による故障・損傷の場合
2. 取扱説明書に記載の使用方法・ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
4. タイヤの磨耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、リクライニング用ワイヤー、ブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
5. 修理に要した運賃等の諸経費
6. この保証書は日本国内のみ有効です。

アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または(株)松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。



株式会社 松永製作所

〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484
TEL0584-35-1180(代) FAX0584-35-1270
URL <http://www.matsunaga-w.co.jp>